

鹿角市地域福祉市民意識調査
調査結果報告書
(概要版)

平成30年11月

鹿角市健康福祉部福祉課・鹿角市社会福祉協議会

目 次

I 実施概要と回収状況	P3～P4
II 調査集計結果の概要	P5～P30
資料 地域福祉計画策定に関するアンケート質問票	P31～39

I 実施概要と回収状況

1 調査目的

社会福祉法に基づく鹿角市地域福祉計画の策定にあたり、地域住民等の意識や日常生活の現状を把握し、地域福祉計画の策定並びに本市における地域福祉施策推進のための基礎資料とすることを目的とし、市民アンケートを実施する。

2 実施日程

平成30年9月28日（金）から10月15日（月）まで

3 実施対象

平成30年8月31日時点で住民基本台帳に登録されている方のうち、無作為によって抽出した満年齢20歳以上74歳以下の市民1,400人。

4 実施方法

- (1) 配付 郵便による配付
- (2) 回収 郵便（受取人払い）による回収

5 回収率

42.5%（595人／1,400人）

6 回答者の属性

(1) 男女別

	対象者数		回答率		回収率
	人数	構成比	人数	構成比	
男	766	54.7%	301	50.8%	39.3%
女	634	45.3%	292	49.2%	46.1%
計	1,400	100.0%	593	100.0%	42.4%

(2) 年代

	対象者数		回答率		回収率
	人数	構成比	人数	構成比	
30歳未満	165	11.8%	37	6.3%	22.4%
30代	175	12.5%	50	8.5%	28.6%
40代	258	18.4%	90	15.2%	34.9%
50代	259	18.5%	101	17.1%	39.0%
60代	388	27.7%	205	34.7%	52.8%
70歳以上	155	11.1%	108	18.3%	69.7%
計	1,400	100.0%	591	100.00%	42.2%

(3) 地区別

	対象者数		回答率		回収率
	人数	構成比	人数	構成比	
八幡平	195	13.9%	79	13.3%	40.5%
尾去沢	130	9.3%	60	10.1%	46.2%
花輪	650	46.4%	269	45.2%	41.4%
十和田	425	30.4%	187	31.4%	44.0%
計	1,400	100.0%	595	100.00%	42.5%

(4) 同居家族別

	人数	構成比
単身	72	12.2%
夫婦のみ	132	22.4%
二世帯(中学生以下有)	51	8.7%
二世帯(中学生以下無)	138	23.4%
三世帯(中学生以下有)	63	10.7%
三世帯(中学生以下無)	45	7.6%
その他	88	14.9%
無回答	6	1.0%
計	595	100.0%

(5) 福祉との関わり別 (複数回答)

	人数	構成比
無関係	325	48.8%
仕事・ボランティア	87	13.1%
高齢	22	3.3%
障害	23	3.5%
子育て中	30	4.5%
病弱	3	0.5%
ひとり親家庭	7	1.1%
生活困窮	13	2.0%
身近にいる	106	15.9%
その他	25	3.8%
無回答	25	3.8%
計	666	100.00%

Ⅱ 調査集計結果の概要

1 福祉との関わり

問7 現在、あなたは「福祉」とどのような関わりがありますか。次の中から該当するものをすべて選んでください。

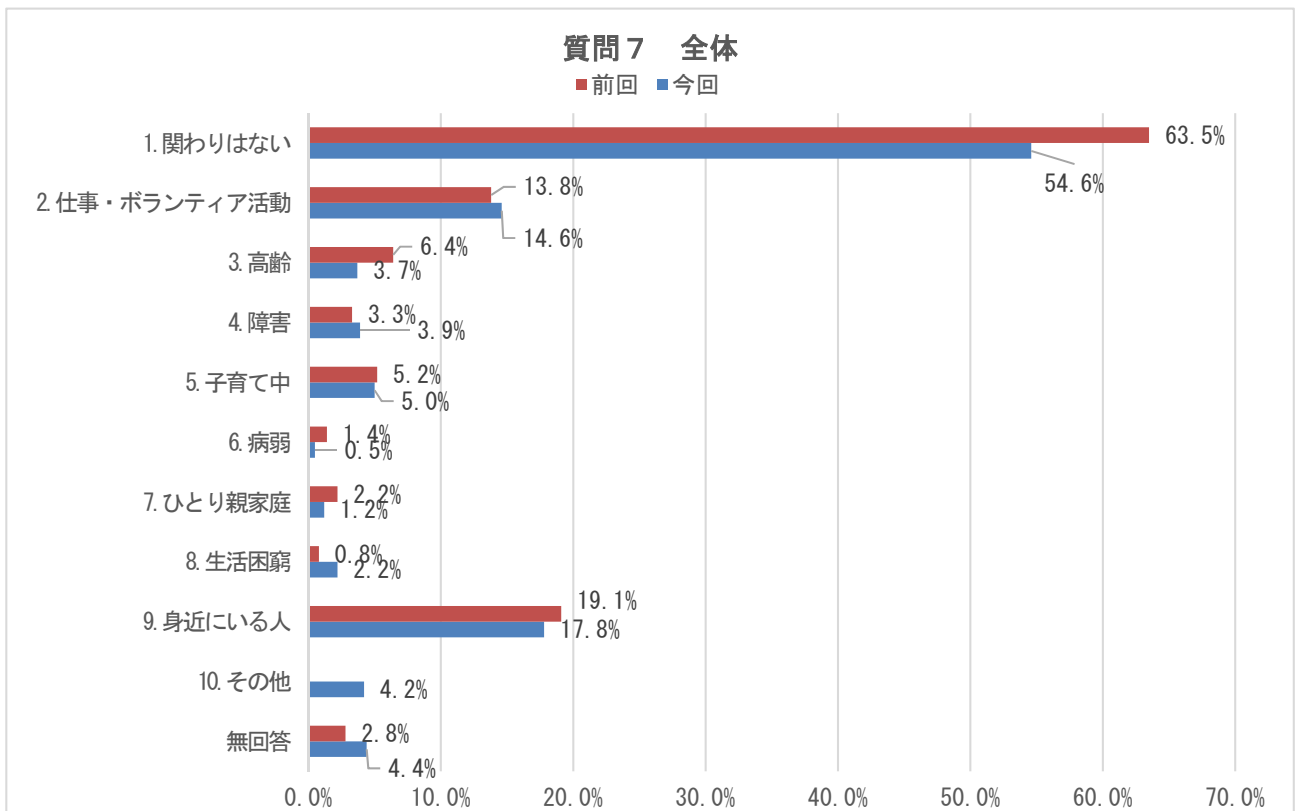
1. 関わりはない
2. 福祉に関わる仕事やボランティア活動をしている
3. 高齢（要介護、要支援、ひとり暮らし等）のため、福祉サービスを必要としている
4. 障害があるため、福祉サービスを必要としている
5. 子育て中のため、福祉サービスを必要としている
6. 病弱のため、福祉サービスを必要としている
7. ひとり親家庭のため、福祉サービスを必要としている
8. 生活が困窮しているため、福祉サービスを必要としている
9. 身近に福祉サービスを受けている人がある
10. その他

《調査結果の概要》

◎全体集計

現在の福祉との関わりについては、「関わりはない」が54.6%と最も多くなっています。

ついで「身近に福祉サービスを受けている人がある」が17.8%「福祉に関わる仕事やボランティア活動をしている」が14.6%、となっています。



2 福祉に関する情報を得る手段

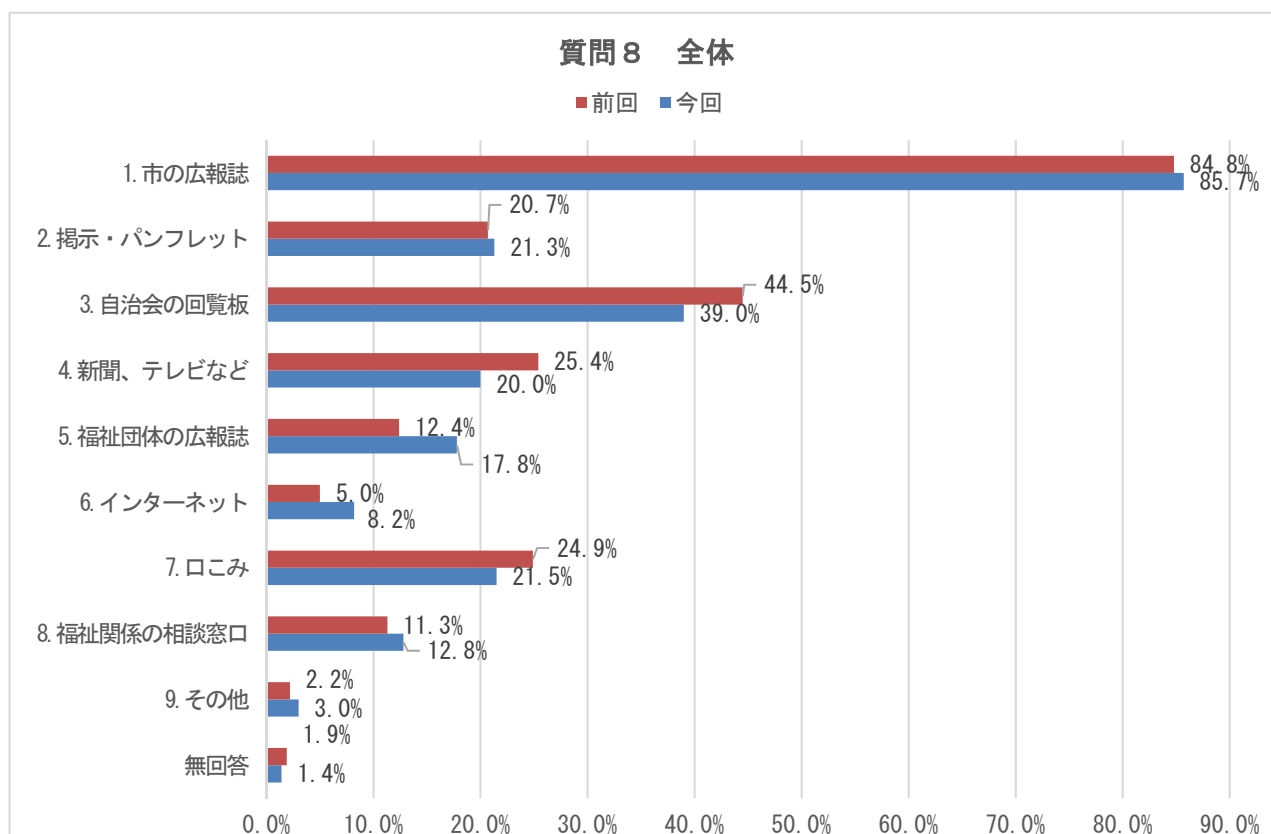
問8 あなたが市の福祉に関する情報を得る手段はどれですか。次の中から3つまで選んでください。

1. 市の広報誌（広報かづの）
2. 公共施設の掲示やパンフレットなど
3. 自治会の回覧板
4. 新聞、テレビなど
5. 福祉団体の広報誌
6. インターネット
7. 口コミ（知人から聞いた）
8. 福祉関係の相談窓口
9. その他

《調査結果の概要》

◎全体集計

市の福祉に関する情報を得る主な手段としては、「市の広報誌（広報かづの）」が85.7%と多数を占め、ついで「自治会の回覧板」（39.0%）、「口コミ」（21.5%）、「公共施設の掲示やパンフレットなど」（21.3%）、「新聞、テレビなど」（20.0%）となっています。



3 日常の困りごとの相談相手

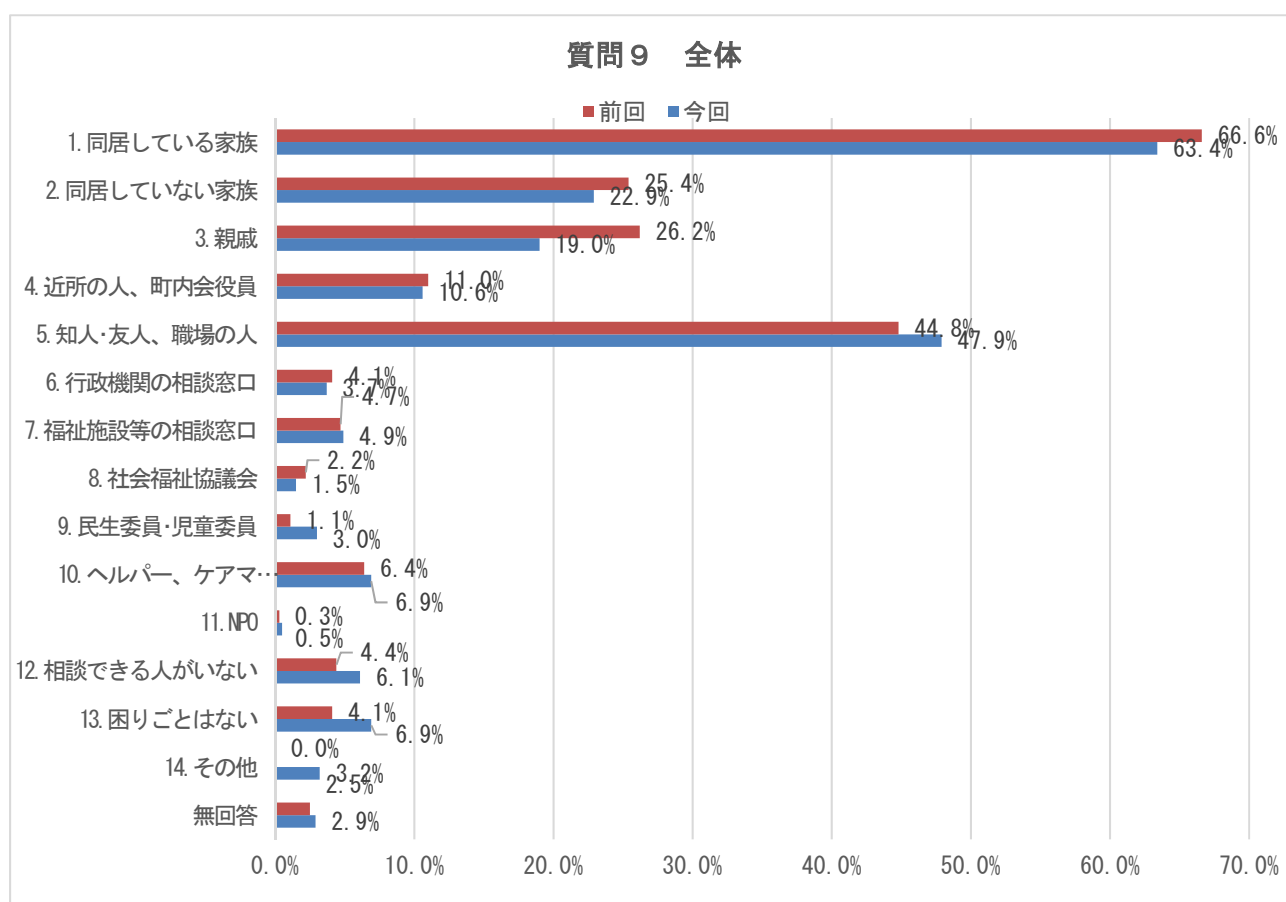
問9 あなたは、日常生活の困りごとを誰に相談していますか。よく相談する相手を次の中から3つまで選んでください。

1. 同居している家族
2. 同居していない家族
3. 親戚
4. 近所の人、自治会の役員
5. 知人・友人、職場の人
6. 行政機関の相談窓口（市役所、交番など）
7. 福祉施設等の相談窓口（地域包括支援センターなど）
8. 社会福祉協議会
9. 民生委員・児童委員
10. ヘルパー、ケアマネージャー、主治医など
11. NPO
12. 相談できる人がいない
13. 困りごとはない
14. その他

《調査結果の概要》

◎全体集計

日常生活の困りごとの相談相手は、「同居している家族」が63.4%と最も多く、ついで「知人・友人、職場の人」が47.9%、「同居していない家族」が22.9%となっています。



4 近所の人から受けている手助け

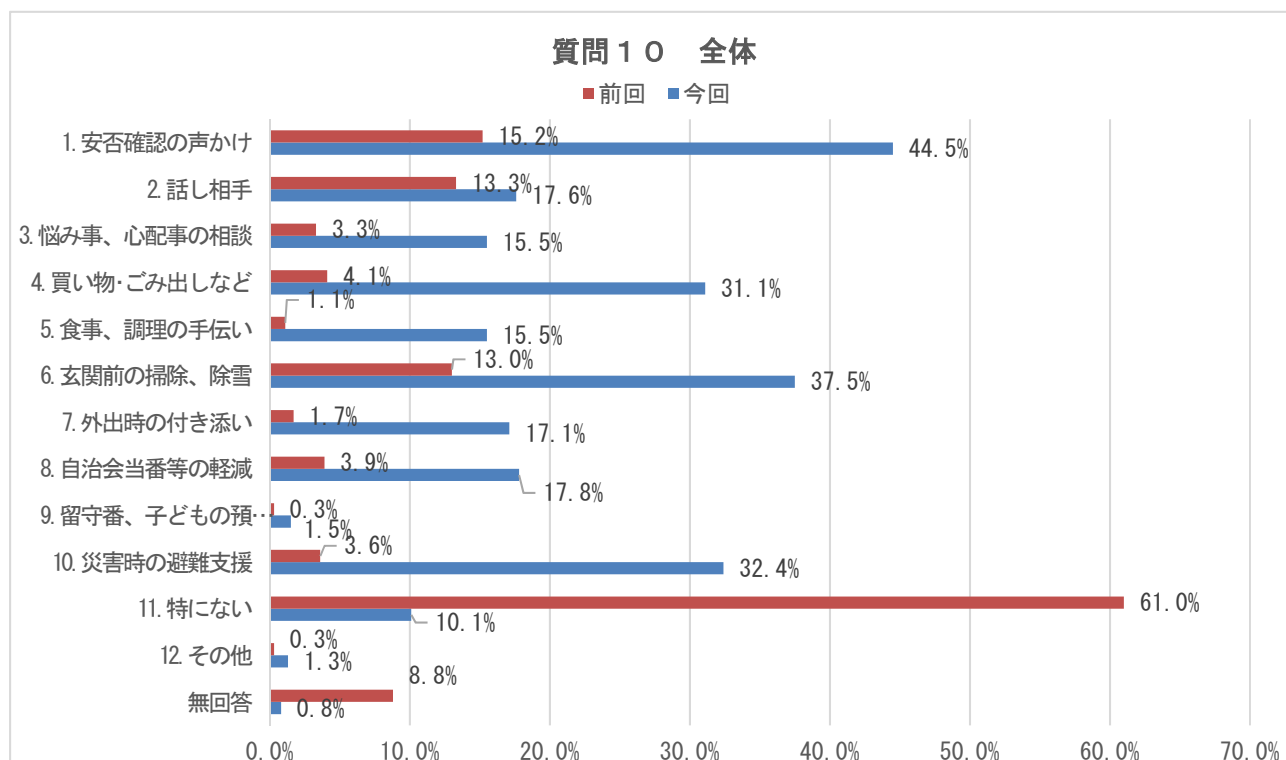
問10 現在、あなたが近所（すぐに顔を出せる程度の範囲）の人から手助けを受けていることがあれば、それはどのようなことですか。次の中から3つまで選んでください。

1. 安否確認の声かけ
2. 話し相手
3. 悩み事、心配事の相談
4. 買い物・ごみ出しなど簡単な家事の手伝い
5. 食事の提供、調理の手伝い
6. 玄関前の掃除、除雪
7. 通院など外出時の付き添い
8. 自治会の掃除当番等の軽減
9. 短時間の留守番、子どもの預かり
10. 災害時の避難支援
11. 日常生活に不自由があるが、地域の手助けを受けていない
12. 手助けを必要としていない
13. その他

《調査結果の概要》

◎全体集計

近所の人から受けている手助けについては、前回のアンケート結果を上回っている項目が多くあり、「安否確認の声かけ」が44.5%と最も多く、ついで「玄関前の掃除・除雪」が37.5%、「災害時の避難支援」が32.4%、「買い物・ごみ出しなどの簡単な家事の手伝い」が31.1%など近隣住民の助け合い活動が行われているのが特徴的でした。



5 近所の人とのつきあいの程度

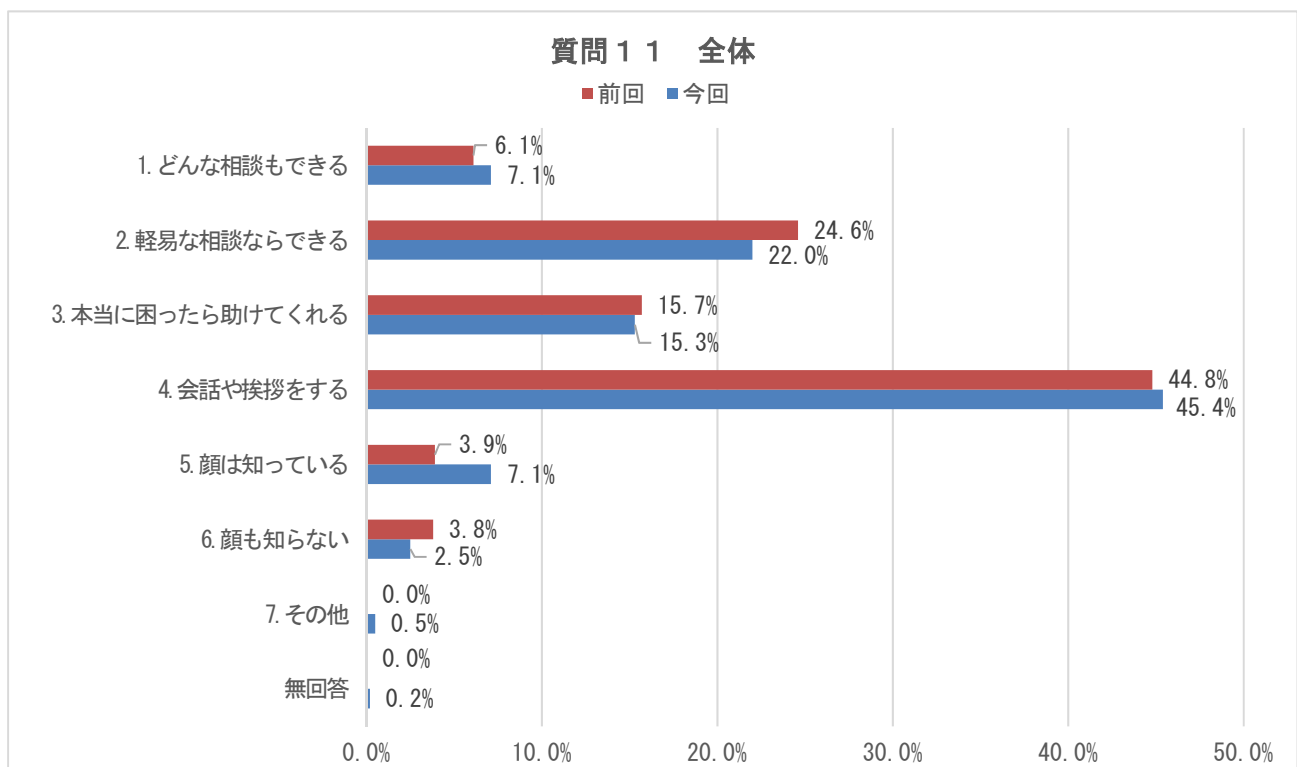
問 1 1 あなたは、近所の人とどの程度のつきあいがありますか。次の中から1つ選んでください。

1. どんな相談や頼み事でもできる人がいる
2. 軽易な相談や頼み事ならできる人がいる
3. 本当に困ったときならば助けてくれる人がある（と思う）
4. 顔を合わせれば会話や挨拶をするが、相談や頼み事までできる人はいない
5. 近所の人顔は知っているが、声をかけることはほとんどない
6. 近所の人顔も知らない
7. その他

《調査結果の概要》

◎全体集計

近所の人とのつきあいの程度については、「顔を合わせれば会話や挨拶をするが、相談や頼み事までできる人はいない」が45.4%と最も多く、ついで「軽易な相談や頼み事ならできる人がいる」が22.0%、「本当に困ったときならば助けてくれる人がある（と思う）」が15.3%となっています。



6 地域活動への参加状況

問12 あなたは、どのような地域活動（地域における自治活動や市民活動）に参加していますか。次の中から該当するものをすべて選んでください。

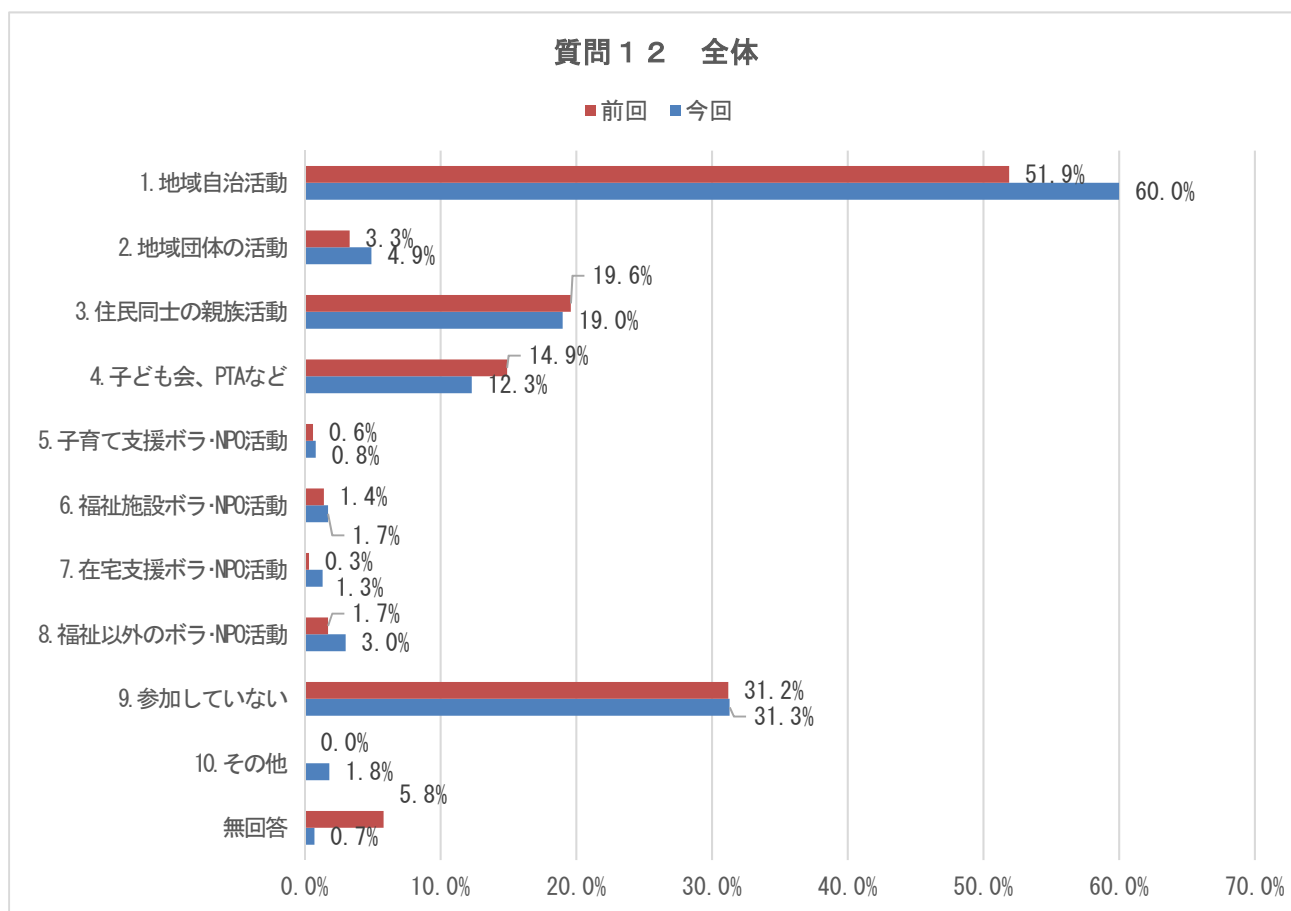
1. 自治会などの地域自治活動
2. 社会福祉協議会などの地域団体の活動
3. 老人クラブ、婦人会、青年会などの住民同士の親睦活動
4. 子ども会、PTA、学校協力活動
5. 子育て支援関係のボランティア・NPO活動
6. 福祉施設でのボランティア・NPO活動
7. 高齢者や障害者の在宅活動を支援するボランティア・NPO活動
8. 環境など福祉分野以外のボランティア・NPO活動
9. 参加していない
10. その他

《調査結果の概要》

◎全体集計

地域活動への参加状況をみると、「自治会などの地域自治活動」が60.0%と最も多く、ついで「老人クラブ、婦人会、青年会などの住民同士の親睦活動」が19.0%、「子ども会、PTA、学校協力活動」が12.3%となっています。

一方で、「参加していない」が31.3%となっています。



7 地域活動への参加を求められた場合の参加について

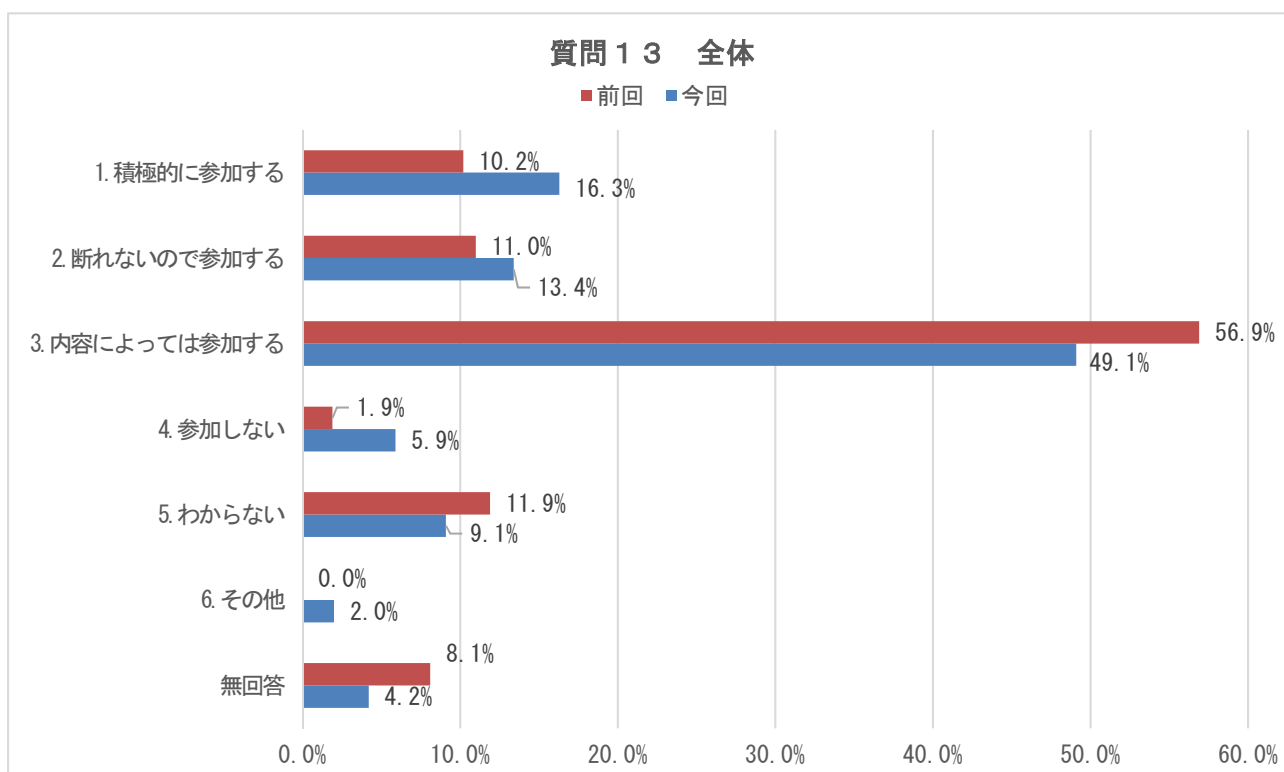
問13 あなたは、地域活動への参加を求められた場合どうしますか。次のページの中から1つ選んでください。

1. 積極的に参加する
2. 輪番制などで断れないので参加する
3. 内容によっては参加する
4. 参加しない
5. わからない
6. その他

《調査結果の概要》

◎全体集計

地域活動への参加を求められた場合は、「内容によっては参加する」が49.1%と最も多くなっています。ついで「積極的に参加する」が16.3%、「輪番制などで断れないので参加する」が13.4%と前回のアンケート結果を上回っています。



8 地域活動に参加する際に支障になること

問 1 4 あなたが地域活動に参加するとき、支障になること（参加しない又は参加できない理由）はどのようなことですか。次の中から3つまで選んでください。

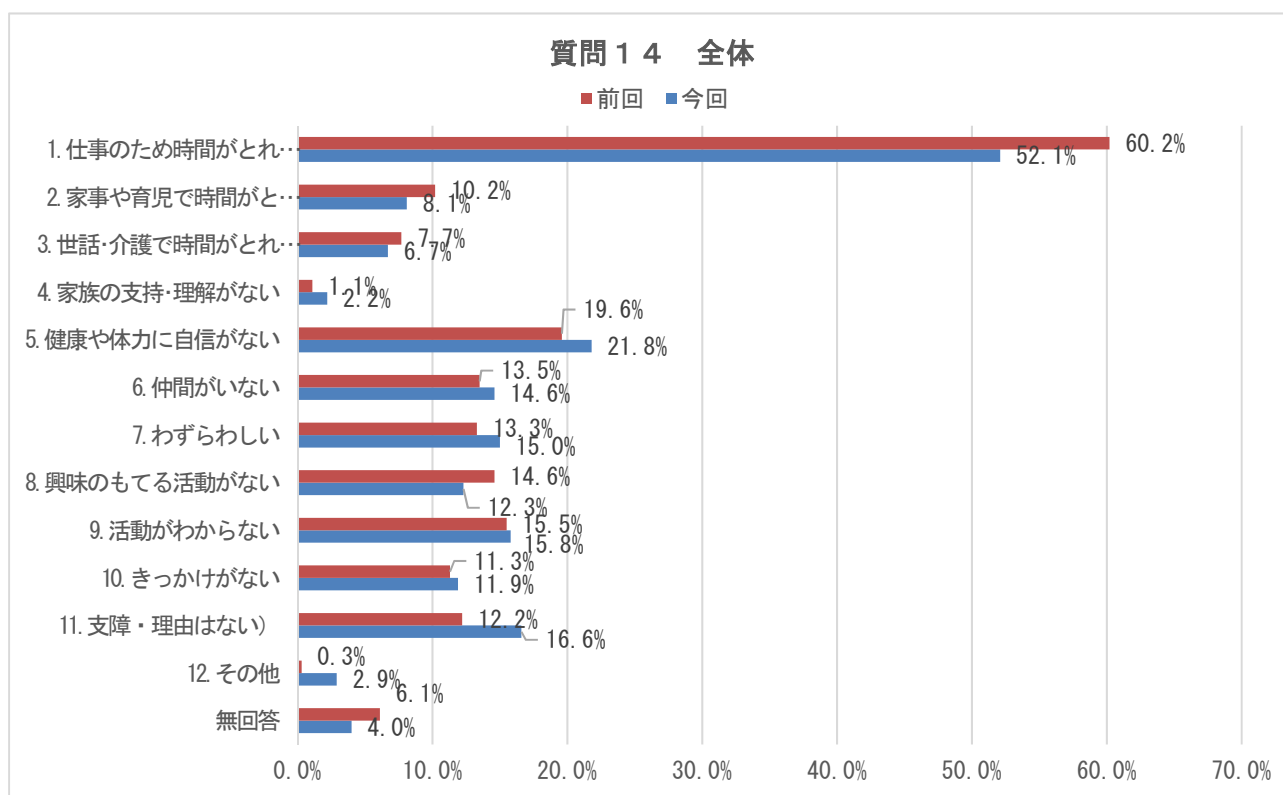
1. 仕事のため時間がとれない
2. 家事や育児のため時間がとれない
3. 高齢者、障がい者や病人の世話・介護のため時間がとれない
4. 家族の支持・理解がない
5. 自分の健康や体力に自信がない
6. 一緒に参加する仲間がいない
7. 人間関係などがわずらわしい
8. 興味のもてる活動が見つからない
9. どのような活動があるのかわからない
10. きっかけがない
11. 特に支障はない（特に理由はない）
12. その他

《調査結果の概要》

◎全体集計

地域活動に参加する際に支障になることとしては、「仕事のため時間がとれない」が52.1%と最も多く、ついで「自分の健康や体力に自信がない」（21.8%）、「人間関係などがわずらわしい」（15.0%）、「家事や育児のため時間がとれない」（8.1%）、「高齢者、障がい者や病人の世話・介護のため時間がとれない」（6.7%）となっています。

一方、「特に支障はない」（16.6%）、「どのような活動があるのかわからない」（15.8%）、「一緒に参加する仲間がいない」（14.6%）、「きっかけがない」（11.9%）など思いはあるが何らかの理由で参加できないと感じている人がいます。



9 「社会福祉協議会」の認知度

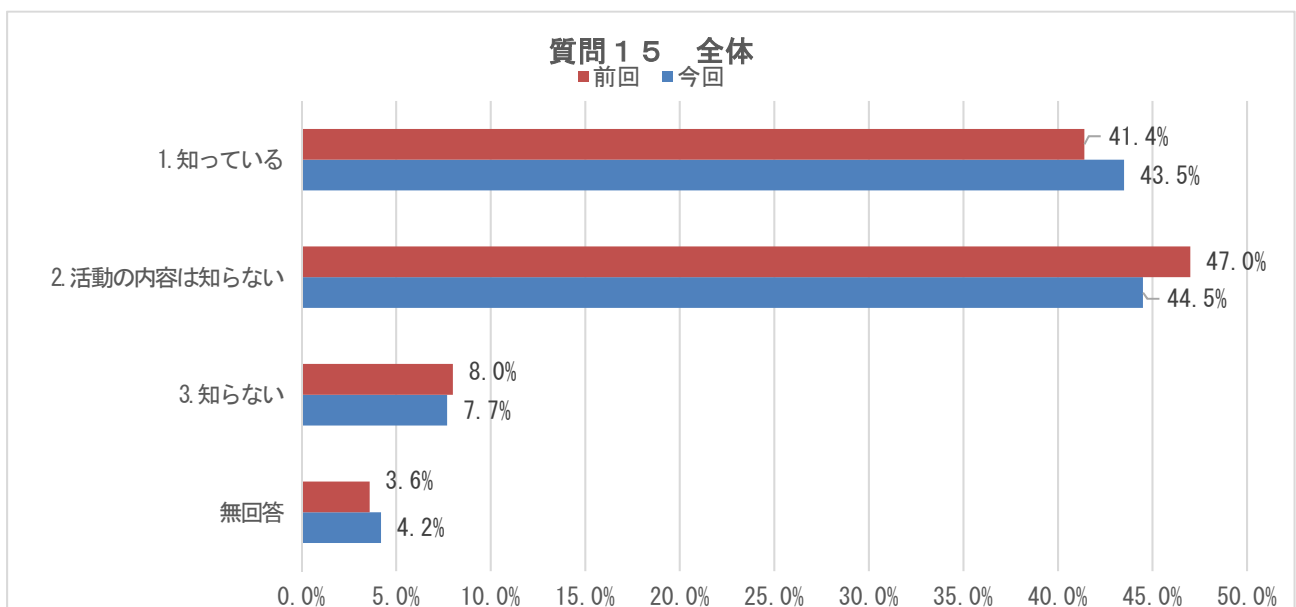
問15 あなたは、「社会福祉協議会」についてご存じですか。次の中から1つ選んでください。

1. 知っている
2. 名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない
3. 知らない

《調査結果の概要》

◎全体集計

「社会福祉協議会」については、「名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない」(44.5%)と「知っている」(43.5%)が4割強となっています。一方、「知らない」は7.7%となっています。



10 「民生委員・児童委員」の認知度

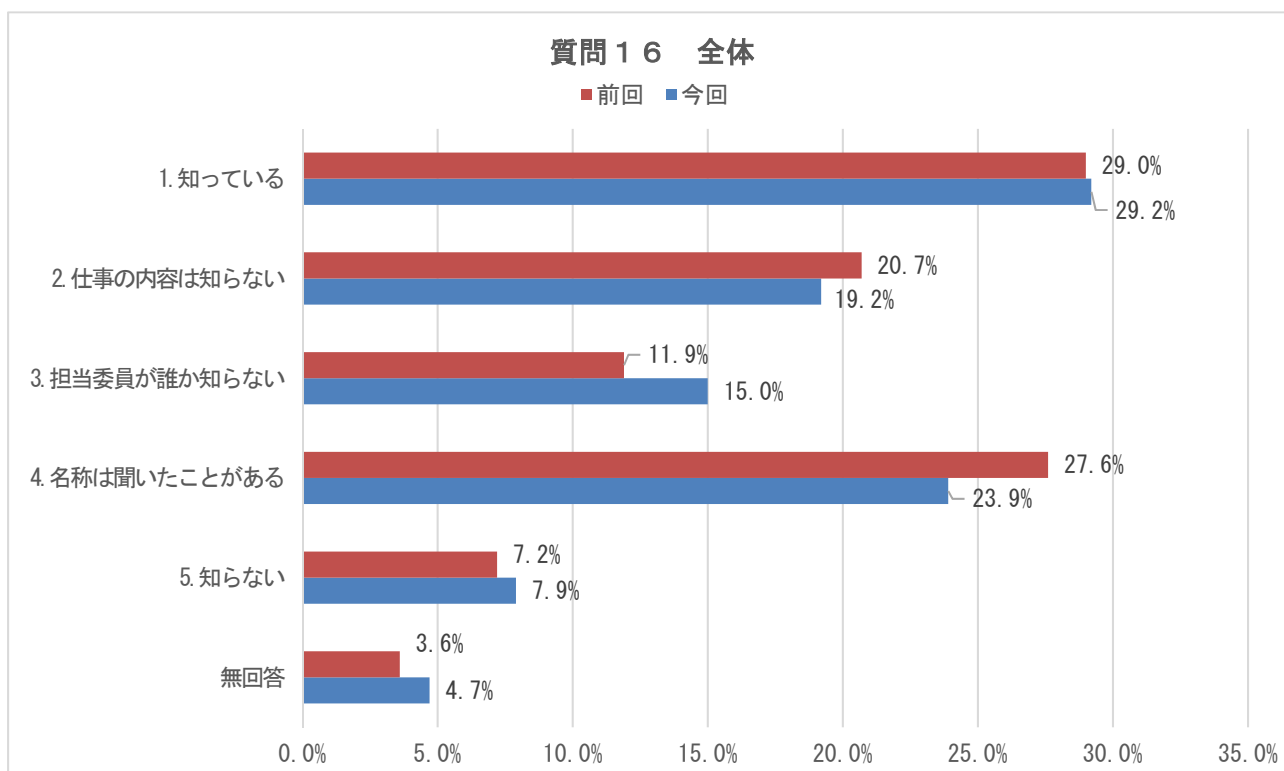
問16 あなたは、福祉に関する相談ボランティアである「民生委員・児童委員」についてご存じですか。次の中から1つ選んでください。

1. 地域の担当委員が誰か知っており、仕事の内容も知っている
2. 地域の担当委員が誰か知っているが、仕事の内容は知らない
3. 地域の担当委員が誰か知らないが、仕事の内容は知っている
4. 名称は聞いたことがあるが、地域の担当委員も仕事の内容も知らない
5. 知らない

《調査結果の概要》

◎全体集計

福祉に関する相談ボランティアである「民生委員・児童委員」については、「地域の担当委員が誰か知っており、仕事の内容も知っている」(29.2%)、「地域の担当民生委員が誰か知っているが、仕事の内容は知らない」(19.2%)と認知されている一方で、「名称は聞いたことがあるが、地域の担当委員も仕事の内容も知らない地域の担当委員が誰か知らない」(23.9)、「地域の担当民生委員が誰か知らないが、仕事の内容は知っている」(15.0%)、「知らない」(7.9%)という思われている人もいます。



1.1 「成年後見制度」の認知度

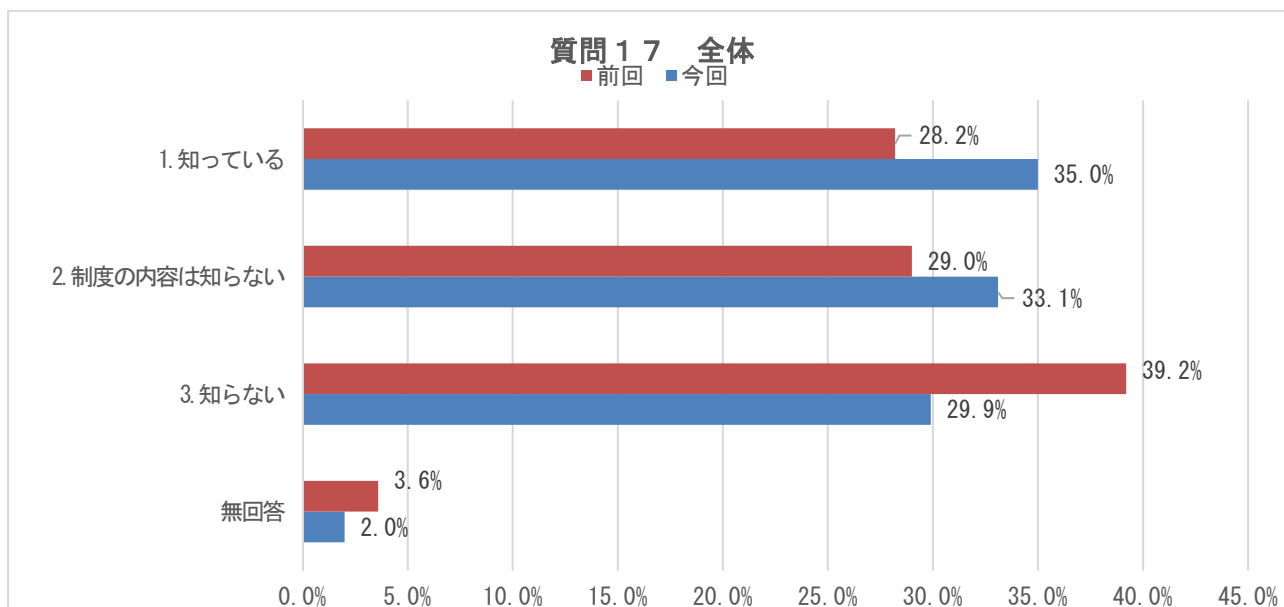
問17 あなたは、後見人が判断能力の不十分な高齢者や障害者の財産管理や身上監護等をする「成年後見制度」についてご存じですか。次の中から1つ選んでください。

1. 知っている
2. 名称は聞いたことがあるが、制度の内容は知らない
3. 知らない

《調査結果の概要》

◎全体集計

後見人が判断能力の不十分な高齢者や障害者の財産管理や身上監護等をする「成年後見制度」について、「知っている」は35.0%と前回アンケート結果を上回っているが、一方では「名称は聞いたことがあるが、制度の内容は知らない」(33.1%)、「知らない」(29.9%)などまだ制度の周知不足があると思われます。



1 2 地域社会の役割として期待する機能

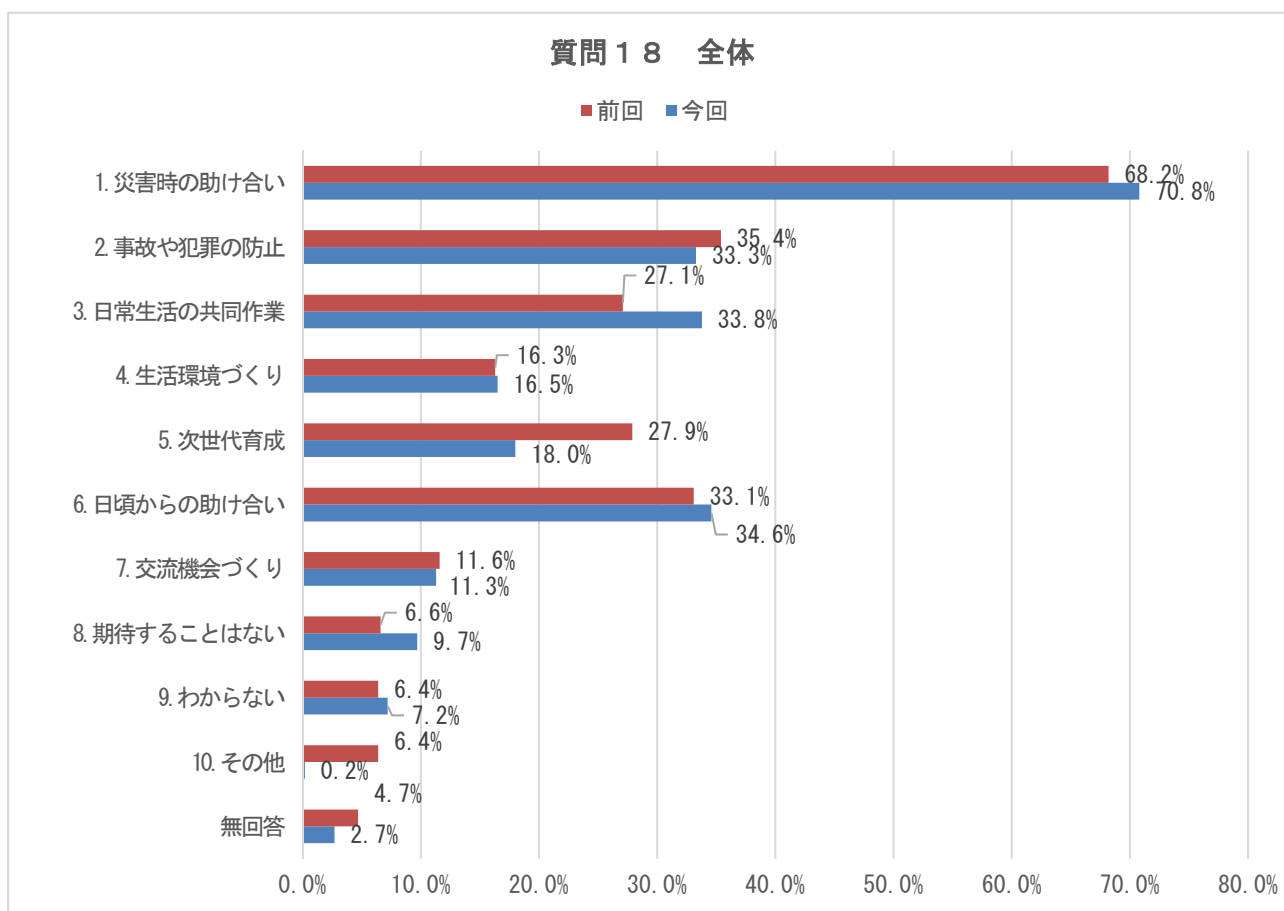
問 1 8 あなたは、地域社会の役割としてどのような機能を期待しますか。次の中から3つまで選んでください。

1. 災害時の助け合い
2. 事故や犯罪の防止
3. ごみ集積所の維持管理や除雪など日常生活の共同作業
4. 緑地・公園の保全、生活道路の整備などの生活環境づくり
5. 教育や子育て支援など地域ぐるみでの次世代育成
6. 高齢者の日常生活の支援など日頃からの助け合い
7. イベントなど住民間の交流機会づくり
8. とくに期待することはない
9. わからない
10. その他

《調査結果の概要》

◎全体集計

地域社会の役割として期待する機能については、「災害時の助け合い」が70.8%と多数を占め、ついで「高齢者の日常生活の支援など日頃からの助け合い」(34.6%)、「ごみ集積所の維持管理や除雪など日常生活の共同作業」(33.8%)、「事故や犯罪の防止」(33.3%)と続いています。



1.3 地域づくりの障害となること

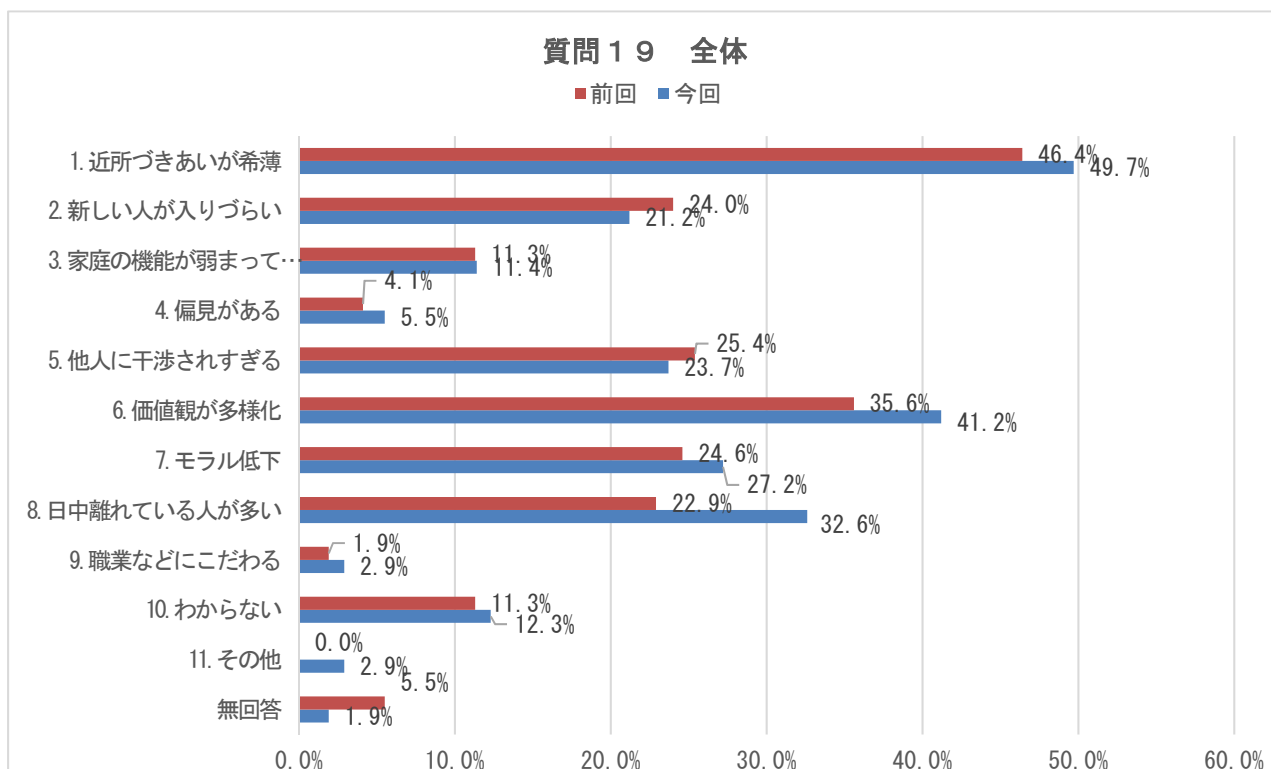
問19 あなたは、地域づくりの障害となることはどのようなことだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

1. 近所づきあいが希薄になっていること
2. 既存の地域活動には新しい人が入りづらいこと
3. 家庭の相互扶助機能（親や身内の世話や介護など）が弱まっていること
4. ひとり親家庭や障害者への偏見があること
5. 他人に干渉されすぎること（プライバシーが守られないこと）
6. 住民の価値観が多様化していること
7. 一人ひとりのモラルが低下していること（ルール・マナーが守られないこと）
8. 日中、地域を離れている人が多いこと
9. 職業、出身や家柄、国籍や人種・民族などにこだわること
10. わからない
11. その他

《調査結果の概要》

◎全体集計

地域づくりの障害となることとしては、「近所づきあいが希薄になっていること」が49.7%と最も多く、ついで「住民の価値観が多様化していること」（41.2%）、「日中、地域を離れている人が多いこと」（32.6%）、「一人ひとりのモラルが低下していること（ルール・マナーが守られないこと）」（27.2%）、「他人に干渉されすぎること（プライバシーが守られないこと）」（23.7%）と近年の地域住民の働き方や意識の変化が現れたように思われます。



1.4 地域ぐるみで進めるべき取組み

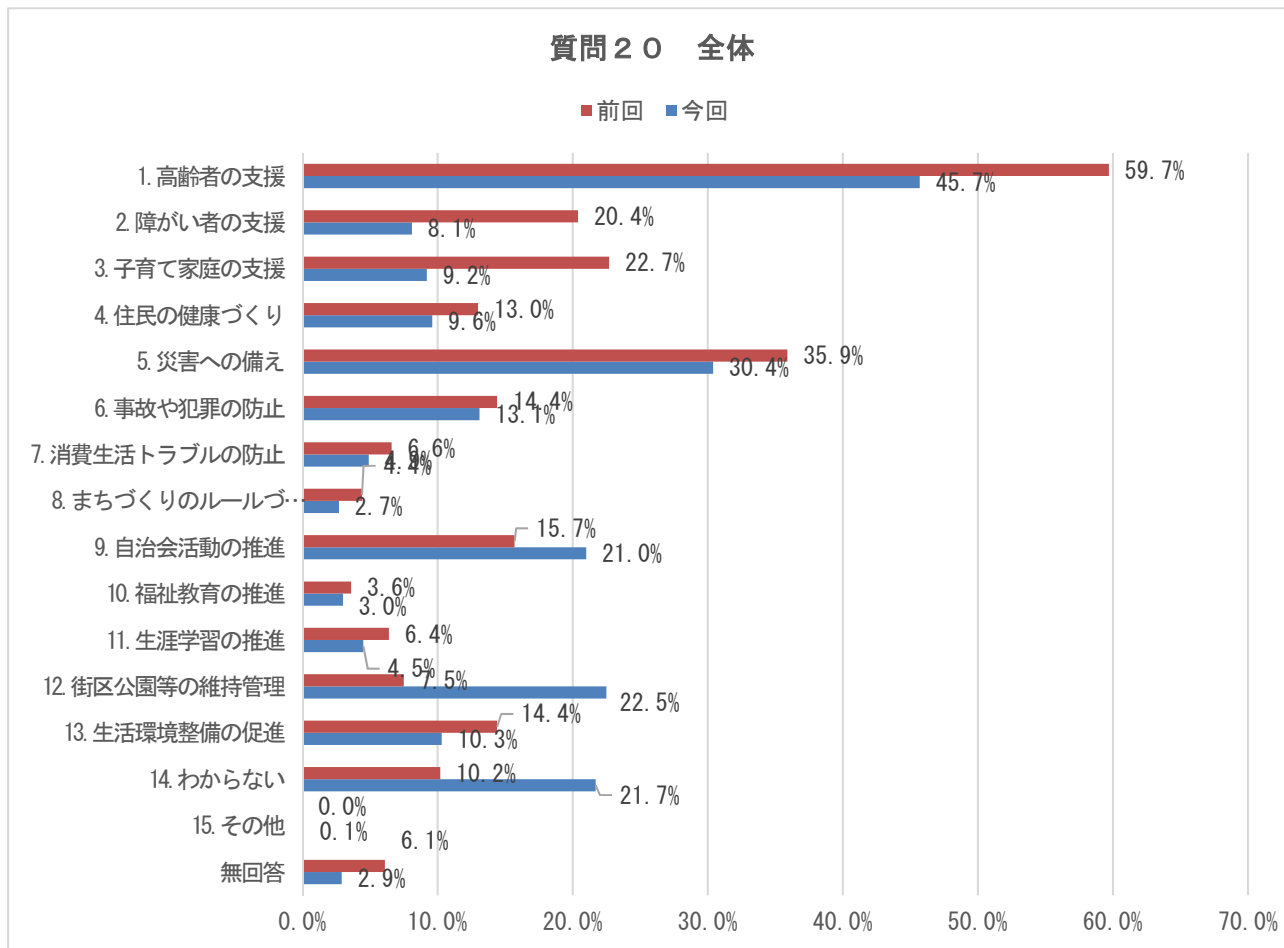
問20 あなたは、あなたの住んでいる地域において、地域ぐるみでどのような取組みを進めていけばよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

1. 高齢者の支援（見守り・安否確認など）
2. 障害者の支援（見守り・安否確認など）
3. 子育て家庭の支援（悩み相談、地域ぐるみの見守り・協力など）
4. 住民の健康づくり（疾病予防・健康増進）
5. 災害への備え（自主防災組織づくりなど）
6. 事故や犯罪の防止（防犯パトロールなど）
7. 消費生活トラブルの防止（情報提供や地域への声かけなど）
8. まちづくりのルールづくり（地区計画、建築協定など）
9. 自治会活動の推進
10. 福祉教育の推進（小中学校への情報提供、学習活動への協力）
11. 生涯学習の推進（地域の連帯感を高めるための行事など）
12. 街区公園等の維持管理（草刈り、清掃など）
13. 生活環境整備の促進（道路や下水道の整備など）
14. わからない
15. その他

《調査結果の概要》

◎全体集計

地域ぐるみで進めていけばよいと思う取組みは、「高齢者の支援（見守り・安否確認など）」が45.7%と最も多くなっています。ついで「災害への備え（自主防災組織づくりなど）」（30.4%）、「街区公園等の維持管理（草刈り、掃除など）」（22.5%）、「自治会活動の推進」（21.0%）が続いています。



15 行政が福祉を進めるために優先すべき取組み

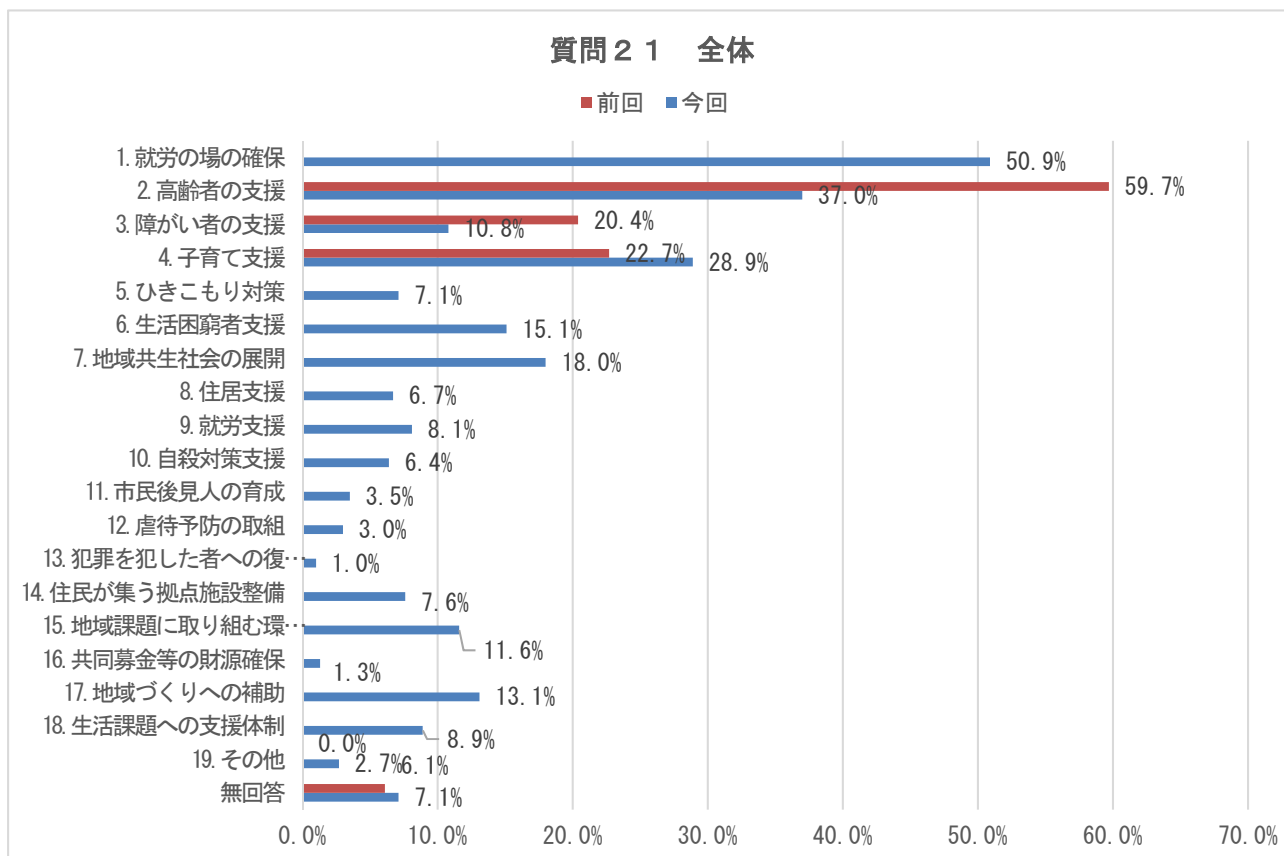
問21 あなたは、これからの行政が優先して取り組むべきものはどれだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

1. 就労や活動の場の確保
2. 高齢者に対する支援
3. 障がい者に対する支援
4. 子育てに対する支援
5. ひきこもり対策
6. 生活困窮に対する支援
7. 地域共生社会（世代や分野等を超えて、みんなで地域を創る社会）の展開
8. 住居に対する支援（市営住宅の整備、バリアフリーの促進）
9. 就労に対する支援（障がい者雇用、資格取得支援）
10. 自殺対策に対する支援
11. 市民後見人の育成と活動支援
12. 虐待予防に対する取り組みの充実
13. 犯罪を犯した者への社会復帰支援
14. 地域住民が集う拠点施設の整備
15. 地域住民が主体的に地域課題に取り組める環境づくり
16. 寄附や共同募金等の取り組みによる財源確保
17. 地域づくりに対する補助事業の充実
18. 地域生活課題を包括的に支援する体制づくり
19. その他

《調査結果の概要》

◎全体集計

これから行政が福祉を進めるために優先して取り組むべきだと思うものは、前回のアンケートの際は項目になかった「就労の場の確保」が50.9%と最も多くなっています。ついで「高齢者の支援」(37.0%)、「子育て支援」(28.9%)、「地域共生社会（世代や分野等を超えて、みんなで地域を創る社会）の展開」(18.0%)、「生活困窮に対する支援」(15.1%)、「地域づくりに対する補助事業の充実」(13.1%)、「地域生活課題に包括的に支援する体制づくり」(11.6%)など、現代の地域課題の解決に向けた取組を期待していることが数字から読み取れます。



1 6 福祉施設と地域社会との関わりについて

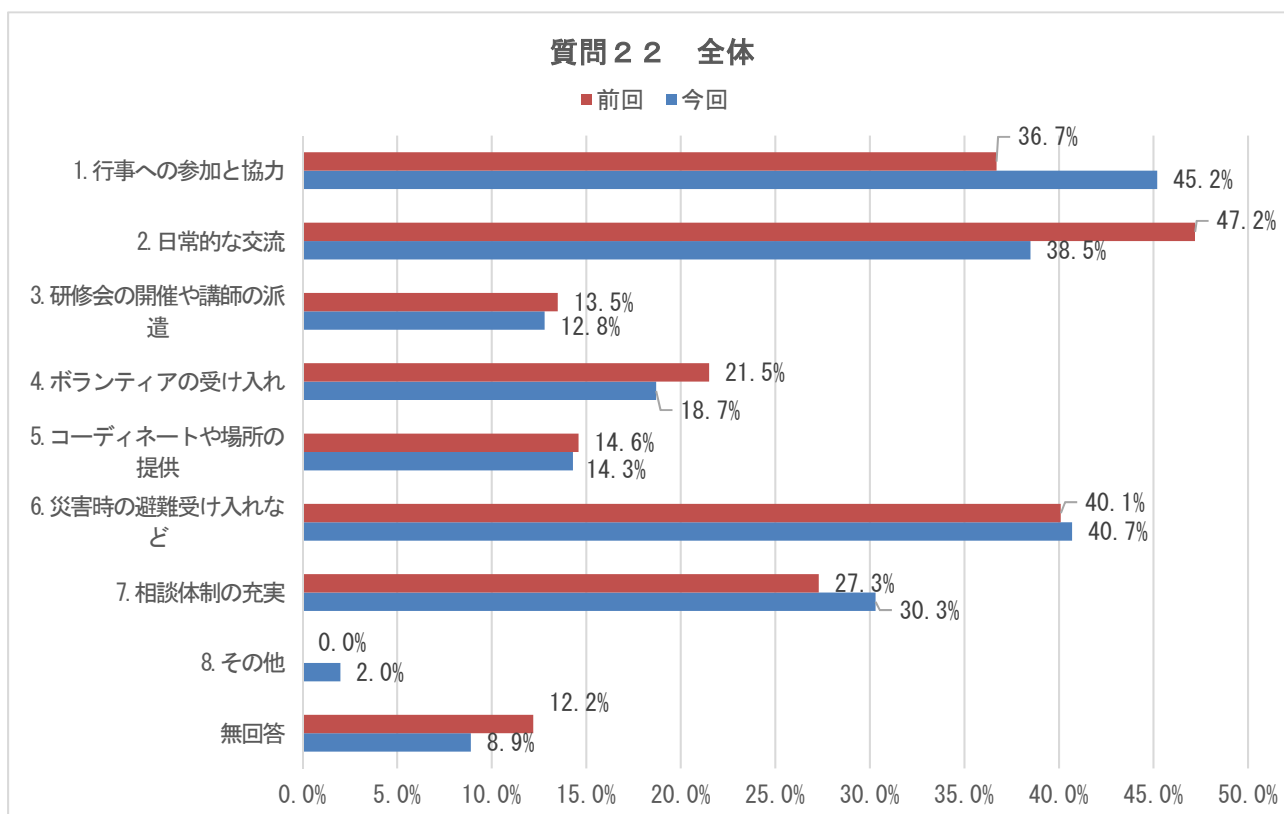
問 2 2 あなたは、地域にある福祉施設（保育園、老人福祉施設など）は地域社会とどのように関わっていけばよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

1. 地域の事業・行事への参加と協力
2. 施設の利用者と地域住民との日常的な交流
3. 専門分野に関する研修会の開催や地域で行われる勉強会への講師の派遣
4. ボランティアを希望する住民の受け入れ
5. 地域住民の交流会・懇談会の開催のためのコーディネートや場所の提供
6. 災害時の避難受け入れなどの支援
7. 相談体制の充実
8. その他

《調査結果の概要》

◎全体集計

地域にある福祉施設と地域社会との関わりについては、「地域の事業・行事への参加と協力」が 45.2%となっています。ついで「災害時の避難受け入れなどの支援」が 40.7%、「施設の利用者と地域住民との日常的な交流」が 38.5%と続いています。



問23 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことのできる地域づくりを進めるためにご意見ご要望がありましたら、どんなことでも結構ですので、ご記入ください。

◆冬期間の除排雪対策、住環境維持がアンケートの回答項目に無かった。高齢化、人口減の本市には重要な課題だと思う。冬期間の生活を考慮した福祉対策の検討をお願いしたい。

◆高齢者にとって交通手段がなくとても不便だと思う。

◆年齢をとっても安心・安全に暮らせる様、地域住民の為に活動している自治会の役割や働きが知らないせいか？子供会を卒業すると自治会に顔を出さなくなる若者が多い。その事により行事の都度集まる住民も役員も超高齢となってしまっている。その事がさらに若者の足を遠のかせる要因となり、悪循環のサイクルが出来上がってしまっていて、近い将来自治会が無くなるのでは？と危惧している。役員が集まる度にアイデアを出しあって話し合うが良い知恵が出て来ません。

◆もっと鹿角市全体で労働賃金が上がって、魅力のある職場が増えて県外就職が減って行けばとは思っている。

◆地域の防災への対策が不十分なので、指導及び補助していただきたい。

◆高齢者社会になり、私もまだ車を運転し買い物もして歩けますがもし、これがあと何年かして運転も出来なくなり、自宅にいるようになり主人も同様になり、町場とは離れていて買い物も出来なくなる時がきます。その時に、この部落にいて皆が同様になったときのことを考えると、とても不安です。

そんな時に買い物や何でも屋さんの事をして下さる人がいたらこの地域に限らず助かるのではないかと思います。営業を主としないで、各地域の人たちで出来るようなことになっていければいいと思います。それには各部落の掃除もそうです。現在出来なくなっている方も出てきているの中で、残った日地たちでやっていますが、これからの社会はこんなことも考えてみて対処できる仕組みを考えたいですね。

◆夫婦共々、鹿角出身ですが十和田地区に結婚してから住んでいます。しかし、自治会の方たちはどこか冷たく…。行事参加の時はとても参加しづらい感じです。子ども達がいる為、参加していますが…。

◆マナーに関すること。犬の糞の片付け、夜間の大きな音など。長く生活すると迷惑が慣れになってしまっていると思う。広報等で定期的に注意喚起してもらいたい。

◆これからお産する病院が大館市まで行かないといけなくて、不便だと思うし出産後の保育園の確保、就業の場が少ない。厚生病院の診療科目が少ない(精神科、皮膚科など)他市町村まで行かないと行けないので不便。パート・アルバイトの時給が鹿角市は低いと感じる。もっと地元で働きやすい環境が必要(職種・時給アップ)空き家の再利用(リフォームの支援他)土日祝祭日の交通手段(バス他)を増やして欲しい。駅までのバス時間を列車の発着時間に合わせてもらえるようにして欲しい。

◆若い人が集まるような施設があれば人口増加や職場の増加など、未来に向けて市の活性に繋がるように思います。

◆高齢になっても住み続けられるんだという希望の持てる町・地域になって欲しい。将来に希望がもてると居住者も安心できると思う。

◆福祉というより、冬の除雪のことなので関係ないかもしれないが、今住んでいる地域では高齢者が多いため除雪が難しいです。特に細い通路は市の大型除雪車が入れないため、人手でやるのですが高齢者は出来ない人が多いです。なんとかなりませんか？

◆災害時に行く場所をちゃんと知らせて欲しい。車を運転出来ない人の移動が心配。災害時、隣近所の人まで世話はできない。

◆地域活性化を図ることにより、住民に安心感を与える手段！鹿角市内の人々のすばらしさを認識して頂き夢のもてる鹿角を表現し若者定着により全員に安心な夢の有る社会を提供する。その1つの例として、市内でのマイスター制などですばらしい商・工・農・林などで活躍している人を洗い出し誇りを持った町として生活できる町造りで、住民への安心感を強める。

◆①これからも高齢者の一人住まいや免許返納者が増える中で、買い物(生活上での)が大変になってきているのではないかと。食材の注文と配達を重点的に取り組んでほしい。

◆②バスの運行のことですが、市の巡回バスは今、花輪地区となっているがその他の地区(尾去沢、八幡平、十和田)なども運行してもらいたい。特に八幡平のJA支所、とんぱち、五の宮温泉の道にバスが走らないバス停もないので、支所やとんぱちに行くのに老人は大変不便を感じている。行政で検討して頂きたいと切に要望します。

◆高齢化と高齢者の独居が増えていくのは必須で、既に市でもそのための取り組みがなされていると思いますが、専門機関に直に相談を持ち込める方はそう多くはないと思われますので、地域においては民生委員や町内会での見守りやネットワークが大事になると思います。市内4か所に地域包括支援センターがありますが、それだけでなく、各町内会に高齢者福祉に精通する住民が1人ずつついて相談・アドバイスの上、包括につなげるようなシステムがあればいいのではと思っています。民生委員もある意味そのような役割を持たれてはいますが、個別の問題についてはあまり突っ込んだ関わりはできないし、専門知識には乏しいと思います。市と地域、相互の協力体制が必要だと思います。また、要支援の方でも冬場の買い物や除雪は容易でないのでさらなる支援・援助が必要なのではと思います。そして、少子化や人口減少も市にとっては深刻な問題です。保育料を無料にするくらいのことを見ると、若い方が安心して子供を産めると思います。

◆これから雪の季節、除雪がヘタ！真ん中だけで、雪をわきに置いていき車がきたときあいた所へ急いでいかなければならない。車庫の前にわざとらしく大きいかたまりをドカンと置かれる。老人世帯の多い地、投げ場所まで運べず大変苦労している。

◆高齢者の方が、意外と相談できる場所を知らない方が多いと思います。市では、もっと分かりやすく情報発信をして欲しいと思います。また、地域で高齢者と子ども達がふれあえるイベントがもっとあればいいと思います。鹿角市には、本当に素晴らしいところがたくさんあるので他市・他県を参考にしてもっとアピールしてほしい、そして、交流できるものがあればいいと思います。また、若い人の意見を述べる場を設けてほしい。高校を卒業と同時に大多数の人が県外へ出るので中・高校生からも意見を聞いてほしいと思います。

◆高齢者という事で、車の運転に自信がなくなってきました。しかし、車なしでの生活が難しく、今後どのようにして暮らしていけばよいか不安です。タクシー券の配布や、定期的買い物への送迎してくれるマイクロバスなど、高齢者の足となってくれるものがあると、今住んでいる所での生活もできるかと思っています。

◆当自治会は、10年ぐらい前までは自治会長をやる人が次から次へといたり、レクリエーションも毎年できる(人数が集まり)活気のある自治会でした。今は半数以上が70歳以上の2人暮らし、1人暮らしの家庭であります。新町にあったマックスバリューがなくなり、車の運転が出来ない(高齢のために)人たちは、口々に買い物が困難だと言います。コモッセあたりに小さくても良いので、スーパーがあればいいと思います。または、コモッセ内にそのような機能があればいいと思います。かねだい跡の(花の輪市)は、駐車場がとても滑りやすく店内の内容も店員も不発でした。町中に身近なスーパー・食料品店・専門科医院などもう一度復活させお年寄り、これからますます増加していく高齢者、老人をゆっくり歩いて行けるような町に、家から外に出るきっかけをつくっていかれたらと思います。健康のためにも、人にも出会い会話し精神的にもストレスが減っていくと思います。

◆人口流出対策が第一。

◆行政がもっと学校教育の中にも入っていき、小さい頃からの地域づくりの意識を育てていくことが増えてもいいのではないかと。行政の人が、講師として学校でお話をして地域の取り組みなどを伝える。福祉に係る内容などを伝える。体験させるとか。

◆毎日が不安です。社会福祉協議会そのもの良く分からない。

◆お産が市立になったが、医師から酷いことを言われ傷つき弘前の病院に変えた妊婦がいると聞く。大館だけでも大変なのに鹿角全部の妊産婦受入で医師がイライラしているとのこと。通院だけでも遠く、大変な思いをしているのに何を言われても我慢しなければならないのか、悔しくてなりません。うちの娘も医師の言うとおりに入院したのに、退院時、これくらいのことでは診断書は書けませんと言われ書いてもらえず、職場で欠勤扱いになりました。腹ただしくて仕方ありません。入院するように言った医師と診断書を書かないと言いつつ医師は別ですが、お産時は選べませんよね。かわいそうでなりません。医師のマタハラってあるんですね。ますます鹿角の人口減るかもしれませんね。娘たちはもう一人欲しいと言っていました。が、あきらめるみたいです。

◆車のドアの閉める時注意してもらいたい。夜中歩いている人がいる。家の前の木をなんとかしてもらいたい。雇用を増やしてほしい。

◆地域経済が活性化しないと安心して暮らせないと思います。そのため若い人の職場があり、安定して収入を得る事が出来ること、高齢者には年金だけで生活が出来る様なサポートが必要なのではと思います。

◆これまであまり社会福祉に関心を持たずに過ごしてましたが、少し考える機会をいただきました。地区の民生委員を知らないでいるのは、私だけかもしれませんが、役目から一度は担当の家々を自己紹介もかねながら廻るとか、地区の役員の中に名を連ねるシステムになるといいのかなと思います。とても大変な事でしょうが。当然プライバシーは守りながらも、地区の問題点や必要だろう事柄、協力体制等々提起して話合えたらいいですね。活動されている事がわからないで勝手だけ書きました。

◆計画策定アンケートよりも、市・社福協による活動計画更新(案)を作り、それを元にしたアンケートの方が現実的・具体的な意見が集約できるのではないかと。

◆福祉サービスを急に受けたくても手続きに日数がかかかかるようなので、仕事に行けなくなるので早く出来ると良いと思う。

◆私共の町内の役員は責任逃れをしようとします。係の人なのに「俺関係ない」といいます。それなのにもらうものはもっているのですよ。

◆なにげに暮らしている日常ですが、このようなアンケートで地域に対して今一度見つめ直す機会を得ることができました。ありがとうございます。

◆次世代を担う子供達に鹿角の歴史や文化をもっと知って欲しいと常々思い、学校の場に出かけては花輪弁で「こういう時、〇〇〇と話すんだよ」とか、歴史を話したり、私たちはすばらしい地に生まれ育ち誇りに思っ下さいと語っています。数年経ち大人になって鹿角の良さが判りますという言葉聞き、嬉しくなるのですが、若者は働く場所が無いと口々に言います。帰って住みたいと言います。就労場所、これが行政でも十分に判っている事と存じますが、町が人が活気づく事と存じます。頑張っ欲しいです。福祉とは地域社会に関心を持ち、いたわり合う心を持つと、地域とも家族とも親子も嫁姑も友人とも上手に付き合っ行けるのにと常日頃思っています。答えにならない事を書いてしまいました。すみません。

◆熊と共存共栄できる自然環境作り

◆家族を持ち、子育ての負担が少ない、子育てに充実した支援補助がある地域が、地域の基盤作りに欠かせないと思う。

◆要望を聞き、受けて下さる窓口の壁を高くせず、また職員の方々も上から目線ではなく、同じ目線、姿勢で受けて下さると相談もしやすいと思います。心のケア、ことばを発する重みは大きいです。

◆ボランティアプラットフォームの創設。ボランティア需要と提供の橋渡しの場を設ける。

◆鹿角市に変化がほしいです。老人が多いので福祉に力を入れるのは、それはもつともですが高校より上の専門学校が例えば1つでもあれば子供が他から通いその親も鹿角を訪れる。それがもし農業の専門学校であれば、鹿角牛もいれば北限のもも、りんご、米など鹿角に永住してくれる可能性もでてくる。子供を育てやすい市になってくれれば、病院等も増えてくるし、老人に力を入れるのも良いが、子供、子孫の為に市を作っいかないといずれ鹿角市はまわっいかなくなると思います。大きな建物を交通の便が悪所に建てないでほしかった。有名な人も呼べそうもないのに呼んだら道路が麻痺するのが分かっているのに。半端なコモッセ、借金だけ子供達に残すのは、もうやめてほしいです。今のままでは子供を作るのも不安です。

◆高齢化、少子化。健康づくり。地域の避難場所。災害時における交通体制(孤立する場合がある)。

◆厚生病院について、必要な時に診てもらおう先生がいるといいです。私は耳鼻科に大館の病院まで通っています。とにかく不便です。在宅介護をしている人より介護者の人が人権を守られていることに私は大変です。
◆雪を捨てる場所がないので、市の除雪車の置いていった雪がかたく、これからもっと年を取ったら玄関から出にくくなるのでは…。女性の一人暮らしには今から少しきつく感じています。
◆知り合いが障害の手続きをした際に担当の方が障害者に利用できる内容の説明もしてくれないし、内容に関しての問い合わせも嫌そうな(使用するのを)態度をされ、利用する事をためらうしかないと言っていました。分からない事を質問するのも使用するのも彼女には怖くて聞けないと。
◆高齢者世帯、子育て世帯などが皆で共生できるよう地域のネットワークの整備が必要であると思うので、社協が今まで以上の力を入れてやってほしい。
◆車の運転が出来なくなった人たち、子育てで忙しい人たちのため近くというか、各地域にスーパーがあればありがたい。花輪や十和田(毛馬内)にはスーパーがあるが、他にはない。時々自転車で大湯方面から毛馬内へ行く老人を見るときのようなものか？空き家が多くなってきている。何かあったらどうするのか。
◆若夫婦の子育支援のための楽しんで学習する場、遊びの場(外で楽しめる場)、大型ショッピングモールなど誘致して若い人たちが働ける場所にして下さい。
◆楽しい場作り。福祉職員、行政職員が無駄足になるかもしれないが、地域の人のお話を聞くことも大事(頼めばやってくれると思っており人もいる)。
◆問21は3つしか答えないのはおかしい。1～19まで行政のやらなければいけないことである。答えにくい質問である。
◆若者が住み続けたくなくなるような魅力的な町づくりをしてほしい。
◆要介護、要支援になっていない健康で元気な高齢者の方への交流の場の提供。一人暮らしなどの方への安心を提供できるサービス等現状をしっかりと把握し状況に応じた対応が出来れば良いと思います。問題がありすぎて困難です。地域の協力が一番大切だと思いますが、地域ですら人手不足になってきているようです。
◆若い世代が少ない事が、活気も薄れネガティブな空気になっていると考えます。難しいと思いますがやはり若い世代が定着できるようなアイデアを出し合って、実現できれば自然に活気があふれ住みよい地域になっていくのではと思います。
◆交通網の見直し、公共交通機関の整備が必要になっているのではないかと思う(新たな形のもの)
◆①県北は熊と人の住む領域を分けるべき。
◆②元気な年金受給者を地域ごとにまとめ、全国、世界を対象にして所得を増やす方法を見つけるべき。
◆地区の人が安心して付き合える
◆地域内(町内会、部落会)で世代間ギャップの話をよく耳にします。昔程縦社会の規律はなくなっているとは思いますが、お互いに歩み寄り仲よく暮らせる地域であってほしいと思います。
◆子育ても一段落し地域に何か貢献できればと考えているのは私だけでしょうか？皆が参加出来るようにもっとアピールをして、協力できる人無理なく色々出来たら素晴らしいと思います。
◆子供の医療費が高校生まで免除になってくれるといいです。もう一人子供がほしいと思いますが、金銭面が心配すぎて今は諦めています。日々の生活がいつぱいいつぱいで貯金も出来ず。これから生活していけるのか不安です。
◆「行政主体の霊園設置、運営管理の要望」本来であれば定年前後にお墓の準備するひが多いと聞きます。私はお墓を管理する者がいれば市内にお墓を購入したいと考えておりますが、我が家の子供(二人)は関東圏を生活拠点としており秋田には帰って来ることはありません。既にお寺の檀家となり、お墓を所有している方々も多いと思いますが少子化や核家族化の影響でお墓の管理ができず、墓じまいを選択するという話を聞いたこともあります。その為お墓の準備をどうすればいいのか現状苦慮しているところです。先日仙北市角館に一般墓所のほか樹木葬墓地(宗教不問霊園)がり、安価(永代使用料、永大供養料、埋葬料込)な値段で運営がされていると知りました。これは行政主体で実施しているのか、民間委託されているのか不明ですがお墓を持っていないものとしては大変興味があります。しかし市内のお寺

は檀家減少に伴うお寺の維持運営に苦慮している現状を考慮すると厳しい案件ではありますが、行政主体の霊園設置、運営(民間委託)の協議していただきたいと思ます。

◆認知症の方が徘徊していても地域の人達が声を掛け、助け合えるような安心できる街づくりである事を望みます。認知症の対策の仕方を地域の方々に周知してほしい。交通事故に遭わないようにドライバーも今以上に気配り安全にすごせるように対応してほしい。

◆これからどんどん一人暮らし、高齢者世帯が増えてくると思うので地域皆で、声掛けして行けるような環境になればいいと思う。また子育て中は学校行事、PTA役員、部落の役員と何もかも役員が重なり大変になるが、少しでも負担が少なくなるような地域で協力できる事があればいいと思う。

◆タクシー代 1 回 500 円の免除について、その年齢にならないと利用できないでは(高齢者夫婦のみで免除なし、病気などで運転不可能な人もいます)高齢者には負担がかかります。年齢に関係なく条件付きで免除してほしい。高齢者夫婦のみでの生活(同居の子供、親族がいない、近くに住んでいない)運転免許を持っていない、又は病気の為運転不可能など実際に困っているのに利用できない制度では意味がないと思ます。1 回 500 円ではどこまで乗れますか？何を基準で 500 円でしょうか？八幡平・毛馬内から厚生病院へタクシー行くには全然足りず高齢者夫婦の負担が大きいです。月に一度の通院も国民年金者には交通費の負担はとても大きいです。月に一度だけでも往復のタクシー代を免除してほしい。又は月に一度だけでも無料送迎の車を用意してほしい。車に関しては一緒に付き添いが 2 人同乗できる大きさの車(高齢者夫婦の場合、高齢者が高齢者に付き添っています。通院のために都心などにいる子供が帰省して付き添ったりしていますので、2 人同乗の車が必要だと思ます。)困っていても何もできずにいる人もいます。広報などに簡単に分かりやすく困ったときの連絡先などのせてほしい。

◆地域医療の充実に力をいれてほしい。信頼できる医師がいなく不安。花輪地区だけでない公共交通の確保。高齢者が免許を返納しやすくなるように。できるだけ徒歩社会を作り、外出を増やし、街の活性化につなげてほしい。

◆人口が減少している。若者が定着して働ける所を作してほしい。福祉施設を増やして職場の確保をしてほしい。

◆高齢化に伴い活動の場が少なくなっているのので、気楽に参加できる行事などの実施。隣近所の付き合いが少なくなっている。

◆職場の環境で地域活動に参加する時間をとれない。休んで参加すれば給料が安くなるので休まれない。本アンケートに対して職場の方も理解をしてくれる様になると今よりは参加できる。

◆高齢化が進んでいます。社協のいろいろな制度のこと又は、保健センターの利用などまだまだ頭に入っていない人がいると思ます。脳トレなども何かの機会に提供してもらえると嬉しいです。

◆高齢者の買物、通院の交通手段の充実

◆今、早急に必要なのは安心して暮らす為の医療体制だと思ます。医師不足が深刻です。大館までいかなければならない診療の科がある。産科も鹿角になくなりますます少子化です。次世代の人が安心して子供を産めないことはとてもマイナスです。人口もどんどん減って本当に不安です。健康寿命に関して何も対策がなされていないと思ます。時代はどんどい禁煙ムードなのに建物が全然禁煙になっていない。もっと市をあげて健康寿命にとりくんでほしいです。若い人が過ごしやすい鹿角にしてほしいです。

◆突然の自宅訪問頂き深く感謝いたします。宜しく願います。

◆若い人たちがどのように地域を望んでいるのか、中学生や高校生にアンケートをとって将来地元に残っていく方向を探してほしい。年々老人が増えてるので大変です。自分達が老人ですので若い人の発送を期待したい。

◆高齢者の一人暮らしの方が増えています。もっと施設があるとよい。介護保険が中々厳しいので、介護を受けている方はどんどん支援が減らされている状況なので暮らしやすくないと思ます。

◆私の周りにも一人暮らしの人が増えて来ています。若い人なら心配ないですが、ほとんどが年をとっているです。いつか自分もそのひとりになるのかと思うと不安です。数少ない近所の人ともなるべく挨拶したり、自治会の行事に参加したりして暮らしていきたいと思ます。

◆家族に働けない人がいる住居の支払の援助があったら良いなと思います。働けない人とは、高齢者や育児してる方などの事です。住居の支払いとは家賃とかの事です。家庭の事情で家を出たくても出らない。市営住宅にも限りがあるので少しでも地元に残れる様に援助していただけたらと思いました。
◆安心してらせるには医療の充実、特に産婦人科の設立。
◆健康講座を行って健康で暮らせる様な地域社会を。
◆限界集落が目の状況において、若年層にだけ負担がのしかかるような事のないような社会づくりが必要だと思う。
◆税金が高すぎる。90歳以上の老人が2人いて、生活していて自分達も年金をもらう年となり、この先の生活が心配です。生活保護を受けたいくらい。老人福祉にばかりに力を入れ、若い人達がかわいそう。若い人達も年金払っているけどもらえるものやら。病院でも老人ばかりいて意識もなく入院病棟で何もできずに寝ていて本当に幸せなのではないでしょうか？臓器提供より延命処置をするかしないかの方が重要に感じます。若い人達に夢のある鹿角であってほしい。そうでなければ人口が減るばかりだと思います。
◆高齢者が近くにあつまって少数でいいから元気な顔を見ながら楽しみたい場所が近くにほしい。冬になるし身体を動かす事の少なくなるので、「ペタンク」とか色々運動する所がほしい。市民センターだとあまりにも広いので。
◆高齢者介護の為、若い人が仕事につけず又仕事も辞めなくても続けられる社会→高齢者を支える側の労働者の確保の政策。子供ができて安心して仕事に復帰でき、働ける環境の整備→共働き夫婦の為の子供見守り活動。平日、夜間時間にしびりが無い。
◆一人生活者が回りに多く(老人)いるためにいつも元気でいるか心配です。
◆公共的機関が居住地域とか離れた場所に集中している。人口減少が進み、空家等も増えているコンパクトな地域・まちづくりが難しくなるのでは？
◆無知な人のために生活、社会など人が生きていく上でやらなければいけない事、必要な事、全てについて相談、支援してくれる場所。その場所を110番や119番のように誰でも知りえるものにする。どこに相談したらいいか悩む事なく一か所の場で対応してくれる組織を小学生でもわかるものにする。
◆地域の行事や活動を子供達にみてもらったり、参加していただけてくのも必要と思われれます。
◆高齢者宅の除雪作業の支援をお願いしたい。(それと空家の除雪も含む)
◆大雨による洪水対策、米代川堤防損壊対策など先手々による対策。
◆いろんな場所や施設での立派なリーダーの育成が必要だと思う。人間育成。
◆高齢者、障害者への支援はもちろんですが、一人暮らしの高齢者への支援は急務だと思います。特にこれから冬を迎えます。雪対策は深刻です。間口、何センチとか積雪何センチとかいわず、気持ち良く綺麗にしてほしい。それにはもっと大規模なボランティア制度(高校生～一般人まで幅広く)。本当に一人暮らしの高齢者支援は本腰を入れてほしい。
◆自分で責任をもって判断したり行動したりする習慣がない地域だと感じている。個人情報に対する意識がなく、自分で事実を確かめずにうわさ話を信じていることが多いので、本当に人を信頼することができない。政策だけでなく、住民の本質的な意識改革を行える行政を行ってほしい。
◆高齢者や一人暮らしの人が、困った時緊急が要する時、簡単に連絡とれるような措置が出来ると良いと思います。時々お話相手などに訪問してくれる人がいると良いと思います。今各部落でサロンなど行なわれていますが、大変良いと思います。
◆移住者促進をしても、閉鎖的だと愛着を持ちにくいのでは。他地域では見知らぬ人同士であいさつ、会話はあがるが、鹿角では顔見知りなのにそれが無いのが残念です。コミュニケーションがないと地域づくりも進まないのでは・・・。
◆俺は一人者。これからはまわりの人、兄弟などに迷惑かけたくないと思ってる。他人に関わりたくない。しかし民生委員でなく福祉の方ならいろいろ話す事できると思う。年1回ぐらいの訪問など願うものだ。
◆コストコを誘致してほしい。
◆地域自治会、となり近所の交流を大切に

◆自治会長と民生委員を兼ねている自治会がありますが、便利なようでもそれぞれの役回りは立ち位置が違ような気がします。兼ねている所で、自治会での困りごとを相談できない。言ってもきまり事だからと自治会目線であしらわれたので口をとぎしている人もおります。なるべく、2つの役職は別人にして幅広い相談窓口にして欲しいものです。自治会役員にもっと女性が参画できる指導を望みます。

◆挨拶と笑顔

◆雇用問題。娯楽施設。市役所職員の対応。

◆安易に外国人労働者を入れない。治安が必ず悪化します。ノルウェーは外国人移民を受入れるようになってから1000人当たりの犯罪率が高くなり、今では日本の13倍以上です。

◆雇用を安定させる。地方交付税交付金が増えるように頑張ってください。公務員でも非正規雇用はおかしい。安くこき使っているとしか思えない。緊縮財政の弊害です。

◆公共事業にもっとお金を使って欲しい。最近の災害の影響で、国道・剣道がボロボロの片側通行、災害大国日本ではインフラを維持することも重要です。公金の無駄遣いという方も多いですが、道路がしっかりしていないと運搬業者などの働く人々の労働生産性が上がりません。経済的にも相当損をしているということに気付いて欲しい。田子-鹿角間のトンネル工事も同じ理由で賛成。・・・関係ないですが、地方都市の現在の限られた予算では、もうやれることは事はほとんどありません。安倍総理は「自分が総理のうちに緊縮財政を終わらせたい」と言っていますが、国民が声を上げなければ動けません。「国の借金」問題ではありません。正確には政府の借金で我々国民が政府に銀行をとおし貸しているもので、我々の借金ではありません。国債は日本円立なので政府の子会社である日銀が買えば、連結決済で実質0になります。実際、日銀の金融緩和で250兆円の国債が買われ130兆円の政府の借金は減ったのです。テレビでは報道しないしおかしい。私は病気ではありません(笑)

◆地域住民同士の交流があって初めて緊急時の対応が可能である。顔見知りが多くなれば、永住しようという気にもなる。共同浴場を利用している人の中では会話も成り立つがそれ以外はきっかけさえない。体力維持のため散歩している人は何人かいる。せめて500円おきに位に、小公園(木、数本、ベンチ)があれば、何気なく交流の場になり得るし、500円毎に、ひと休みできれば散歩をしようとする人も増えると思う。ついでにトイレもその距離程度で使えれば、高齢者は助かる。共同浴場のトイレが外部からも上手く使えれば便利。

◆街灯を増やして欲しい。

◆毛馬内団地の道路には、交差点が多いが止まれの標識が一つも無い。団地内を走る車は、注意しながら徐行しながら通る車もいるが、そのままスピードを出して走る車も少なくない。危険だと思い、町内の総会で訴えたが、行政からは標識がつけば捕まるのは住民だよと言われたそう。違反しなければいいだけの話なのだが。実際に事故は起きてしまった。車同士の事故だった。そこは、子どもも多く通り一つ間違えば大惨事になっていたといっても過言ではない。しかし、行政は動かない。現在、苦肉の策として町内会として徐行と書いた立札を団地内に立てている。行政は人が死なないと動かないのだろうか。

◆自活するのに十分な得られる働き口が少ないのが、鹿角市の最大の問題点ではないでしょうか。

◆安心・安全は自らの心掛けのこと。住民の個を尊重し、個々の生き方にあまり手助けをせず自立すべきあり方を教えること。地域社会(公助)も多少必要。自助の必要大です。それには家族の手助けをルールを小さい時から確立し、あまり公とか他人に迷惑をかけない自立した人生をめざすこと。福祉に甘えてはいけません！

◆地域の情報を的確に判断して色々な方に介入して欲しい。周りを見ていると、サービスを利用している人、利用していない人がまだまだいる。民生委員の地域での活動をもっと活発にして、情報の収集して欲しい。その中から、1人でも多くの利用者を増やしてもらえればと思う。

◆高齢者の支援も結構だが、次世代(子ども~若年層)に対して、魅力ある地域づくりが必要だと思う。今後、10年、20年若しくはそれ以上先を見据えるなら若者に魅力ある町にすることで(若者の人口が増えることで)福祉施設の人材確保、サービス向上につながり、誰もが住みやすい地域づくりになるのではないかと。

◆福祉活動と言っているが現実には活発に行われていないと思います。ここ数年で世の中も大分変わってきていて、住みにくい鹿角市になってきたと思っています。八幡平は特に年のいった人たちが強い、うんざりしています。

◆保育料の軽減。せっかく職場復帰しても、ほとんどが保育料にとられてしまうので働くモチベーションが保てません。

◆自治会費の統一。今の自治会では月に約 3500 円の会費があったり自治会の行事に参加しないと罰金 5,000 円と高額です。仕事をしていると行事に参加するのも難しいし、そうなると行事のたびに仕事を休まないといけません。他の地域では月々500 円だったり、罰金がなかったりすると聞いたので不公平に感じていました。親(祖父母)と同居しているなら参加してもらうことも可能だと思うのですが、夫婦二人だとなかなか難しいです。土日の行事も子供がいると子どもとのコミュニケーションの場が削られて少し残念です。

◆問 19 でも答えましたが、地域づくりの障害となっているのは、以前に比べ近所づきあいが大変希薄になっている事です。ここは行政でなく、地域に住むひとりひとりが真剣に考えていかなければならないと思います。問 22 にあった、福祉施設の地域事業への参加と協力も一つの方法だと思いますが、どうでしょうか。ともかく、地域みんなが小さなことからできることからやってみようではありませんか。

◆少子化、高齢化が進んでいる鹿角において行政が協力して就業場所の確保や賃金の見直し、魅力ある企業など生活の基盤となる部分をもっと充実させること、安定させることで、福祉や地域活動に取り組んでほしい。福祉は、ひとりよがりになりがちなので、バックヤードをきちんと把握して個々の負担が少なくなり、相互関係がうまくいくなれば良いと思う。

◆自宅の周辺でも、以前から住んでいた人の入れ替わり(死亡して空き家になったり、新しくアパートが出てきて、誰だか分からない人が増えた)が多く、それにとまって、家の周囲に勝手に車を止められることが増えた。あと、近所のプレハブで夕方の 7 時30分過ぎに草刈り機を 1 時間位、大音量でかけたり、大きい除雪車を日曜・土曜に夕 8 時位にかけの人がいるが、普段、となりに住んでいるわけではないので注意しづらいことがあるくらいです。昔と比べて、そこに住んでいる人のことを考えない人が増えた。

◆地域みんなでコミュニケーションを取ることが大事なことだと思います。

◆近所だけでなく地域全体で見守る・声掛けが必要。子育てに力を入れているが、その前の段階が個人情報はどうのこうの言っている場合じゃない。結婚できない独身男性がいる。

◆高齢者が家に閉じこもりがちになり、地域での交流会懇談会にもっと手厚い支援・助成金があれば良いと思います。

◆自治会に加入しているが、活動自体に参加したことがありません。近所の方と会うと、あいさつ程度の話はするが、どんな人なのかわからずあまり交流がない。引越してきて2~3年経つが、長年住むことを考えると子供もいるのでもう少し地域の情報が分かれば良いと思う。自分たちと年代が違う人が多い(地域の行事へ参加している人)イメージがあるのでなかなか活動に参加するきっかけが持てない。若い人でも参加できる(したい)と思う行事、子どもも一緒に参加などあれば良いと思う。

◆医療がどんどん遠く離れるのを止めなくては！

◆地域によっては親切のつもりでも人の内情にズケズケと入り込む人もいるし、言い触れ回る人もいる。地域の人たちに相談するなどとんでもない場所もある。部落との付き合いはほどほどが良いです。ここは都会ではなく田舎なのだから。ですので、福祉協議会の方々はご苦労様ですが頑張ってくださいたいです。

◆所得の向上。

◆高齢・障がい・貧困差し迫った事案から専門家が考えてください。

◆問 9 ですが、民生委員には話づらい。今は、運転出来ますが、バスも通らなくなって買い物に困ります。

◆町場に体育館がなく子供が体を動かし遊ぶところがない。花輪スキー場、アメニティー、スポーツセンター、町から遠い。

◆丹精して作った農作物、花などを勝手に持って行く人が減る事。出来ればいなくなってほしい。

◆今まで以上に、子育て・高齢化社会に対しての支援に力を入れていただきたいです。特に医師不足解消に努めて欲しいです。まだ30代ですが、老後に対しての不安が大きいです。もっと商業施設など、若い人が住みやすい環境づくりをしなければいけないと思います。

◆高齢者対策として福祉施設の確保。

◆安心して出産できる環境づくり(見直し)・賃金、収入アップ

◆地元で生まれた人が、地元で就職できる環境づくり。

◆高齢者支援を1人暮らしだけでなく、2人でも受けられるようにしてはどうですか？70歳以上で、2人きりってのも色々大変だと思います。お金に関しても、体力的な事も、1人も2人も一緒なのは？

◆障害者(身体・精神)への偏見をなくしたり、理解してもらうことが大切だと思います。各職においても障害者も普通の人と同じで得意・不得意がある、人よりも出来ない事が多いだけであって出来る事もあるので障害を持った人も働けやすい職場づくりをする事が必要だと思います。特に発達障害などの目に見えない障害は症例もたくさんあって理解が難しいけど理解してあげようという姿勢を見せてくれるだけでも安心できるので、そういう支援も必要だと思います。自分自身が発達障害なのでもっと住みやすく働きやすい街のなるといいな！と思います。

◆問いの意味があまり理解出来ない。

◆幅広く気軽に相談しやすい環境空間作り。

◆二人の子供を育てています。鹿角は子育てするには良い環境であったと感じております。子育て支援をいろいろしていただきありがたいです。一生懸命子育てしても子供達は鹿角を離れて行ってしまいます。高校卒業した後、進学できる大学近くになくことや望む職業がない理由から鹿角を離れてしまう。現実です。鹿角に残るのは子育てを終え初老を迎えつつある年代から上の年代にのりばかり・・・町を歩いても見かける方は歳をとられて体具合を悪くされているか、それでも日々の暮らしの為買物へは行かなければならず、痛い足を引きずりながら重そうのスーパーの袋を持って少しづつ歩いているかた、杖をつきながら歩き時折立ち止まり休み歩きだし、時間をかけながらスーパーへ向かう方など。私も知っているなら声をかけてお手伝いしてさしあげようとも思いますが、見知らぬ方へは声もかけられず。そのような状況にある時は私は「鹿角が高齢者にとってもっと住むやすい街であればいいのに」と思います。高齢者がお互い支え合い毎日を笑顔で暮らせる地域作りを。声を上げられず密かに暮らしている弱い立場の人へも十分な支援が行き届く地域作りを望みます。歳を取っていくことに不安を感じながら、いずれ一人になっても鹿角に住んでいたいです。

◆私の一番の悩みは雪の事です。年々足腰が弱くなり除雪が困難になってきます。出来るなら融雪溝を作っていただければありがたいです。青森の方では電気を通して雪を解かしているそうです。これこそが福祉や地域で安心して暮らせる事だと思います。一年の半分は雪に囲まれ鹿角の2/3は中年の方々です。建物を建てるだけでなくもっと身近な事に目を向けて自分が老いたら何が不便か皆で考えて、少しでも実現出来たら鹿角にも希望を持って若い人が残ってくれると思うし、やさしい鹿角になれると思います。大変生意気な文で失礼します。としよりのわがままとお許し下さい。少しでもよい鹿角になる事を切に願っています。

◆若者が残っていける生活環境(職場等)がなければ益々過疎化が進み限界集落となる。「駅伝とスキーの街」で市は本当に生き残ってるのか？職場がないので県外に出て行くだけではないか？

◆災害への対策

◆老人福祉を作りホームヘルパーさんが家を廻ったりして、手厚い介護も必要かと思いますがそうなる前の人達に対応をすれば70歳から75歳になったら在宅の介護を受けていない希望者に、サポートカードを配布して、自治会の行事、市民センターの行事、コモッセ等の催物に参加したり、出席したらポイントをつけてもらい、市のゴミ袋、台所洗剤等を健康のご褒美に渡してはどうでしょうか？

◆防災ラジオの普及に行政が積極的になるべき。ラジオは情報収集だけでなく、孤独化の軽減、防災、地域への関心など期待できる効果が多い。最近周知がほとんどない、災害時の反応が少なくなっている対策にもなるのでは？

◆もっともっとアピールが必要と思う。若い人にもお年寄りにも

◆車の運転が出来なくなった時の対応を良くしてほしい。

◆老人ホームをふやしてほしい。

◆除雪の時期になると道路に戻す人が居たり、市で雪を寄せている所によせる人が得をして、真面目な人がその人達のせいで損をし苦労して片付けている。ずるをする人達の道路の除雪のしなければいい！部落に入らなくてもいいところ、強制的に入られるところ、いろいろ無駄な集金が多いところ、格差があまりすぎる。

◆価値観が多様化しているにつけると思う。なのでこの時世に色々大変とは思いますが頑張って下さい。

◆地域行事が多い。参加人数が減っているのに行事をこなそうとするため、一人の負担が大きくなる。その為参加しないと周りの目が不満が参加しない人へ向けられる。地区ごとの行事格差も見られる。

◆民生委員は知っているが、児童委員が誰か知らない。ひきこもりの対策がキーポイントになるかも。これからの時代一時間でも活用できれば、結構な力になってくるかも

◆私は精神障害者で福祉サービスを受けています。支援員の方は人数を増やしてもらうことで、私達も適切なサービスが受けられるのではないかと思います。支援員を評価する立場にある人の評価基準がどうなっているのかと思います。利用者のために頑張っている人を評価することで支援員の人も皆頑張るのではないかと思います。えらい人が変わらないと変わらないんじゃないか、変わらないと弱い立場の人が我慢するだけです。変わって下さい。お願いします。

◆健康寿命のところにしてもっと重点的で漸進的な計画と実施すべきと考える。最近、英国で健康寿命を延ばす省が設立されたとのニュースがあった。どのようなことをするのか興味があります。英国では孤独省も新たに出来たと知りました。体力、知力とも年齢との闘いになりますが、どうすれば低下を防げるか、維持できるかという調査と対策と実施が望まれています。国がやらないなら自治体で先行してやってほしいし、人材も必要になる。

◆家族に迷惑かけないようにピンピンコロリンを願っている 70 代です。テレビ番組で健康寿命を伸ばす方法をスーパーコンピューターが答えた。昨年AIは「総合病院を廃止すると老人は元気になる」と答えていました。日本にあります。病院がなくても老人は元気です。治安のいいところで一人のんびり読書する。早寝早起き三度の食事を自分で用意やさしくされすぎるとネンネンコロリンになりそうです。見守って下さい。

◆周りに障害者を理解する人が少なく、挨拶をしない人、雪かきをしない人、責任のなすりあい(行政)障害者にいい環境をつくるには障害者に対する理解が必要ですが、進歩もないので無理でしょう！市営はアホの集まり！なので市役所に言っても解決出来ない。社会福祉協議会も解決があると思えない。障害者に対して理解があると言うんですか？あったら障害者にいい環境になるはず、何も変わらない。雇用してくれる会社はない！障害者は人間じゃないんですか？

◆歩行者ファーストという意味で横断歩道のある交差点の照明を明るくしてほしい。通学路も照明を確保してほしい。スポ少で購入するもの助成金があればいい。道具、遠征費にお金がかかり部活をしたくても出来ない人もいる為。市に対する意見を書いて参考になるなら意見箱を設置してほしい。

◆有償のボランティアを増やしてほしい。

◆堤防の整備をしてほしい。小学校へ遠くなるのでスクールバスを出して欲しい。

参考資料

地域福祉計画策定に関するアンケート質問票

各 位

鹿角市長 児玉 一
(公 印 省 略)
鹿角市社会福祉協議会 会長 石井 勲
(公 印 省 略)

地域福祉計画策定に関するアンケートへのご協力について (お願い)

日頃より、市政運営に格段のご理解・ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本市では平成26年度から30年度までの5か年計画で、市の策定した第1期鹿角市地域福祉計画と社会福祉協議会で策定した第3期地域福祉活動計画を一体的に推進しておりますが、今年度で現計画が終了となることから、来年度の更新に向けて準備を進めております。

地域福祉とは、地域において人々が安心して暮らせるよう、地域住民や公私の社会福祉関係者がお互いに協力して地域社会の福祉課題の解決に取り組むことであり、市民の皆様にご協力していただくことが大変重要であります。

このアンケート調査で、皆様が普段の生活の中で感じられている率直なご意見やお考えをお聞かせいただきたいと考えております。今後の計画推進にあたり、貴重な資料となりますので、調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

◇回答の提出方法◇

- ①別紙のアンケートに回答を記入のうえ、同封されている返信封筒に入れてください。
- ②平成30年10月15日(月)までに最寄りの郵便局またはポストに投函してください。 ※切手は不要です。

(その他)

- ・対象者(封筒に名前が記載されている方)ご本人がお住まいでない場合は、ご家族の方が代わりに回答してください。
- ・アンケートの結果は市ホームページ等で公開します。

【お問い合わせ先】

〒018-5201 鹿角市花輪字下花輪50
鹿角市健康福祉部 福祉課 地域福祉班
TEL0186-30-0226 Fax0186-30-2044
鹿角市社会福祉協議会
TEL0186-23-2165 Fax0186-23-2850

1 あなたご自身についてお聞きします。

問1 あなたの性別と年齢をお書きください。

性別 年齢 歳（平成30年9月1日現在）

問2 あなたの住んでいる地域を、次の中から1つ選んでください。

1. 八幡平地区 2. 尾去沢地区 3. 花輪地区 4. 十和田地区

問3 あなたは、鹿角市にお住まいになってから、通算しておおよそ何年になりますか。
次の中から1つ選んでください。

1. 5年未満 2. 5年～9年 3. 10年～19年 4. 20年～29年
5. 30年以上

問4 あなたの同居している家族について、次の中から1つ選んでください。

1. 単身
2. 夫婦のみ
3. 親・子の2世代（中学生以下の子どもがいる）
4. 親・子の2世代（中学生以下の子どもがいない）
5. 親・子・孫の3世代（中学生以下の子どもがいる）
6. 親・子・孫の3世代（中学生以下の子どもがいない）
7. その他の世帯（具体的に _____）

問5 あなたのお住まいについて、次の中から1つ選んでください。

1. 一戸建て持ち家 2. 一戸建て借家 3. アパート 4. 市営（公営）住宅

問6 あなたの住んでいる地域に愛着を感じますか。次の中から1つ選んでください。

1. 強い愛着を感じている
2. どちらかと言えば愛着を感じている
3. どちらかと言えば愛着を感じていない
4. わからない、なんとも言えない

※地域：この調査での地域は、町内、集落の範囲とします。

2 日常生活の困りごとに関してお聞きします。

問7 現在、あなたは「福祉」とどのような関わりがありますか。次の中から該当するものをすべて選んでください。

1. 関わりはない
2. 福祉に関わる仕事やボランティア活動をしている
3. 高齢（要介護、要支援、ひとり暮らし等）のため、福祉サービスを必要としている
4. 障害があるため、福祉サービスを必要としている
5. 子育て中のため、福祉サービスを必要としている
6. 病弱のため、福祉サービスを必要としている
7. ひとり親家庭のため、福祉サービスを必要としている
8. 生活が困窮しているため、福祉サービスを必要としている
9. 身近に福祉サービスを受けている人がある
10. その他（具体的に)

問8 あなたが市の福祉に関する情報を得る手段はどれですか。次の中から3つまで選んでください。

1. 市の広報誌（広報かづの）
2. 公共施設の掲示やパンフレットなど
3. 自治会の回覧板
4. 新聞、テレビなど
5. 福祉団体の広報誌
6. インターネット
7. 口コミ（知人から聞いた）
8. 福祉関係の相談窓口
9. その他（具体的に)

問9 あなたは、日常生活の困りごとを誰に相談していますか。よく相談する相手を次の中から3つまで選んでください。

1. 同居している家族
2. 同居していない家族
3. 親戚
4. 近所の人、自治会の役員
5. 知人・友人、職場の人
6. 行政機関の相談窓口（市役所、交番など）
7. 福祉施設等の相談窓口（地域包括支援センターなど）
8. 社会福祉協議会
9. 民生委員・児童委員
10. ヘルパー、ケアマネージャー、主治医など
11. NPO
12. 相談できる人がいない
13. 困りごとはない
14. その他（具体的に)

問10 もし、あなたが高齢や病気などで日常生活が不自由になったら、近所の人に手助けをしてほしいことはどのようなことですか。次の中から3つまで選んでください。

1. 安否確認の声かけ
2. 話し相手
3. 悩み事、心配事の相談
4. 買い物・ごみ出しなど簡単な家事の手伝い
5. 食事の提供、調理の手伝い
6. 玄関前の掃除、除雪
7. 通院など外出時の付き添い
8. 自治会の掃除当番等の軽減
9. 短時間の留守番、子どもの預かり
10. 災害時の避難支援
11. 特にない
12. その他（具体的に)

3 地域活動に関してお聞きします。

問11 あなたは、近所の人とどの程度のつきあいがありますか。次の中から1つ選んでください。

1. どんな相談や頼み事でもできる人がいる
2. 軽易な相談や頼み事ならできる人がいる
3. 本当に困ったときならば助けてくれる人がある（と思う）
4. 顔を合わせれば会話や挨拶をするが、相談や頼み事までできる人はいない
5. 近所の人顔は知っているが、声をかけることはほとんどない
6. 近所の人顔も知らない
7. その他（具体的に)

問12 あなたは、どのような地域活動（地域における自治活動や市民活動）に参加していますか。次の中から該当するものをすべて選んでください。

1. 自治会など地域自治活動
2. 社会福祉協議会などの地域団体の活動
3. 老人クラブ、婦人会、青年会などの住民同士の親睦活動
4. 子ども会（育成会）、PTA、学校協力活動
5. 子育て支援関係のボランティア・NPO活動
6. 福祉施設でのボランティア・NPO活動
7. 高齢者や障がい者の在宅活動を支援するボランティア・NPO活動
8. 環境など福祉分野以外のボランティア・NPO活動
9. 参加していない
10. その他（具体的に)

問13 あなたは、地域活動への参加を求められた場合どうしますか。1つ選んでください。

1. 積極的に参加する
2. 輪番制などで断れないので参加する
3. 内容によっては参加する
4. 参加しない
5. わからない
6. その他（具体的に)

問14 あなたが地域活動に参加するとき、支障になること(参加しない又は参加できない理由)はどのようなことですか。次の中から3つまで選んでください。

1. 仕事のため時間がとれない
2. 家事や育児のため時間がとれない
3. 高齢者、障がい者や病人の世話・介護のため時間がとれない
4. 家族の支持・理解がない
5. 自分の健康や体力に自信がない
6. 一緒に参加する仲間がない
7. 人間関係などがわずらわしい
8. 興味のもてる活動が見つからない
9. どのような活動があるのかわからない
10. きっかけがない
11. 特に支障はない(特に理由はない)
12. その他(具体的に)

4 地域福祉を支える制度に関してお聞きします。

問15 あなたは、「社会福祉協議会」についてご存じですか。次の中から1つ選んでください。

1. 知っている
2. 名前は聞いたことがあるが、活動の内容はよく知らない
3. 知らない

問16 あなたは、福祉に関する相談ボランティアである「民生委員・児童委員」についてご存じですか。次の中から1つ選んでください。

1. 地域の担当委員が誰か知っており、仕事の内容も知っている
2. 地域の担当委員が誰か知っているが、仕事の内容は知らない
3. 地域の担当委員が誰か知らないが、仕事の内容は知っている
4. 名称は聞いたことがあるが、地域の担当委員も仕事の内容も知らない
5. 知らない

問17 あなたは、後見人が判断能力の不十分な高齢者や障害者の財産管理や身上監護等をする「成年後見制度」についてご存じですか。次の中から1つ選んでください。

1. 知っている
2. 名称は聞いたことがあるが、制度の内容は知らない
3. 知らない

5 これからの地域づくりに関してお聞きします。

問18 あなたは、地域社会の役割としてどのような機能を期待しますか。次の中から3つまで選んでください。

1. 災害時の助け合い
2. 事故や犯罪の防止
3. ごみ集積所の維持管理や除雪など日常生活の共同作業
4. 緑地・公園の保全、生活道路の整備などの生活環境づくり
5. 教育や子育て支援など地域ぐるみでの次世代育成
6. 高齢者の日常生活の支援など日頃からの助け合い
7. イベントなど住民間の交流機会づくり
8. とくに期待することはない
9. わからない
10. その他（具体的に)

問19 あなたは、地域づくりの障害となることはどのようなことだと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

1. 近所づきあいが希薄になっていること
2. 既存の地域活動には新しい人が入りづらいこと
3. 家庭の相互扶助機能（親や身内の世話や介護など）が弱まっていること
4. ひとり親家庭や障がい者への偏見があること
5. 他人に干渉されすぎること（プライバシーが守られないこと）
6. 住民の価値観が多様化していること
7. 一人ひとりのモラルが低下していること（ルール・マナーが守られないこと）
8. 日中、地域を離れている人が多いこと
9. 職業、出身や家柄、国籍や人種・民族などにこだわること
10. わからない
11. その他（具体的に)

問20 あなたは、あなたの住んでいる地域において、地域住民主体で取組めるものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

1. 高齢者の支援（見守り・安否確認など）
2. 障がい者の支援（見守り・安否確認など）
3. 子育て家庭の支援（悩み相談、地域ぐるみの見守り・協力など）
4. 住民の健康づくり（疾病予防・健康増進）
5. 災害への備え（自主防災組織づくりなど）
6. 事故や犯罪の防止（防犯パトロールなど）
7. 消費生活トラブルの防止（情報提供や地域への声かけなど）
8. まちづくりのルールづくり（地区計画、建築協定など）
9. 自治会活動の推進
10. 福祉教育の推進（小中学校への情報提供、学習活動への協力）
11. 生涯学習の推進（地域の連帯感を高めるための行事など）
12. 街区公園等の維持管理（草刈り、清掃など）
13. 生活環境整備の促進（道路や下水道の整備など）
14. わからない
15. その他（具体的に)

問21 あなたは、これからの行政が優先して取り組むべきものはどれだと考えますか。次の中から3つまで選んでください。

1. 就労や活動の場の確保
2. 高齢者に対する支援
3. 障がい者に対する支援
4. 子育てに対する支援
5. ひきこもり対策
6. 生活困窮に対する支援
7. 地域共生社会（世代や分野等を超えて、みんなで地域を創る社会）の展開
8. 住居に対する支援（市営住宅の整備、バリアフリーの促進）
9. 就労に対する支援（障がい者雇用、資格取得支援）
10. 自殺対策に対する支援
11. 市民後見人の育成と活動支援
12. 虐待予防に対する取り組みの充実
13. 犯罪を犯した者への社会復帰支援
14. 地域住民が集う拠点施設の整備
15. 地域住民が主体的に地域課題に取り組める環境づくり
16. 寄附や共同募金等の取り組みによる財源確保
17. 地域づくりに対する補助事業の充実
18. 地域生活課題を包括的に支援する体制づくり
19. その他（具体的に)

